

但明治何年ヨリ何年迄何ヶ年間一ヶ年金何程(末年金何程)

右ハ廣島市字何(大字ヲ)何番地(別紙一筆限リ書抜ノ地所)明治何年何月何日(明治何年一何々ノ災ニ罹リ地租ヲ納ムル能ハサルニ依リ明治何年度備荒儲蓄法施行規則ニ照シ金何程何某へ御貸與相成候處今般該地私買讓受候ニ付前書年賦返納殘額引受御規則ノ通毎年十一月一日ヨリ同二十日限リ返納可仕候依之先ニ持主連署借受証書差上申候所如件

廣島市字何(大字ヲ)何番地(士族平民)

明治何年何月何日買讓受人 何 某 印

同上

賣讓渡人 何 某 印

知事 宛

●縣令甲第五十五號 明治二十二年四月一日

郡部地方稅徵收例別冊之通相定ム

郡部地方稅徵收例

第一章 納稅

第一條 地租割ハ四月一日十月一日ノ現在地租額ニ據リ之ヲ徵收ス

第二條 地租割ハ左ノ二期ニ上納スヘシ

但徵收期前月初日以前荒地成ニシテ免租出願ノモノ徵收期限后ニ至リ免租ニナラサルモノアルトキハ其處分后十日限リ徵收スルモノトス

第一期 五月一日ヨリ同三十一日迄 地租金一圓ニ付金六錢

第二期 十月一日ヨリ同三十日迄 地租金一圓ニ付金四錢三厘五毛

第三條 營業稅雜種稅ノ內年稅ハ四月一日十月一日ノ現在ニ據リ之ヲ徵收ス

第四條 營業稅雜種稅ノ內年稅ハ其年額ヲ折半シ左ノ二期ニ上納スヘシ

第一期 (稅區ナキモノ)六月一日ヨリ同三十日迄

第二期 (稅區アルモノ)八月一日ヨリ同三十一日迄

第五條 第三十二條ニ掲グル各科目ノ内個數ノ増加并ニ低稅ノ科目ヲ兼子若クハ低稅科目ヨリ高稅ノ科目ニ轉スル増加ノ稅金ハ其異動届出ノ節上納スヘシ

第六條 雜種稅ノ內季節稅ハ營業届出ノ節其全額ヲ上納スヘシ

第七條 雜種稅ノ內月稅ハ毎月一日ヨリ十六日迄ニ其全額ヲ上納スヘシ

第八條 雜種税ノ内日税ハ毎月一日ヨリ十六日迄ニ其中ノ税金ヲ一時ニ上納スヘシ

第九條 雜種税ノ内日税臨時營業ハ開業日數ヲ豫定シ開業届出ノ節其税金ヲ上納スヘシ

第十條 雜種税ノ内市場税ハ每一ヶ月分仕切帳及ヒ賣上金高ヲ詳記シタル帳簿ヲ翌月一日ヨリ五日迄ニ郡役所ヘ出シ検査ヲ受ケ同時ニ税金上納スヘシ
臨時市場税ハ日數五日以上ハ五日毎ニ五日未滿ハ開場翌日帳簿ノ検査ヲ受ケ同時ニ上納スヘシ

但帳簿ハ検査ノ上之ヲ返付ス

第十一條 營業税ノ内工事受負税ハ請負ノ都度其金高ヲ詳記シタル書面ヲ郡役所ヘ出シ検査ヲ受ケ同時ニ税金上納スヘシ

第十二條 雜種税ノ内船車賣買讓與解破等ニ係ル納税區別ハ國税上納ノ例ニ準スルモノトス

第十三條 雜種税ノ内乘馬水車自轉車ノ賣買讓與ニ係ル納税區別ハ船車國税上納ノ例ニ準スルモノトス

第十四條 雜種税ノ内屠畜税ハ每一ヶ月分臨監督察官吏ノ検査ヲ受ケタル帳簿ヲ添ヘ翌月一日ヨリ五日マテニ税金上納スヘシ
但帳簿ハ参照ノ上之ヲ返付ス

第十五條 新ニ開業ノモノ年税ハ其半額月税ハ其全額日税ノ内臨時營業ニアラサル分ハ其月中ノ全額ヲ營業届出ノ節上納スヘシ
但船車税ニ限り國税ト同時ニ之ヲ納ムヘシ

第十六條 月税ノモノ期限内ニ税金納済ノ后其月十五日以前ニ廢業又ハ轉業セシキハ后半月分ノ税金ヲ返付ス

第十七條 日税ノモノ税金納済ノ后廢業又ハ轉業ニ依リ日數ヲ減縮シタル片ハ其減縮相當ノ税金ヲ返付ス

第十八條 日税中演劇興行人寄席遊覽所ニシテ納税后木戸錢枮代場代敷場等及見物ヲ増減セントキハ其都度追納又ハ下戻シヲ爲スヘシ

第十九條 戸數割ハ四月一日九月一日ノ現數ニ據リ之ヲ徴収ス
第二十條 戸數割ハ其年額ヲ折半シ左ノ二期ニ上納スヘシ

第一期 六月一日ヨリ同三十日迄

第二期 十一月一日ヨリ同三十一日迄

第二章 免除

第二十一條 地租割ノ免除ヲ請ハント欲スルモノハ作物損亡又ハ收獲品亡失ノ實況及ヒ納税シ能ハサル事情ヲ詳記シ其町村内地主二名以上ノ保証ヲ受ケ郡役所ヲ經テ願出ヘシ

但願書ハ納期末日迄ニ町村役場ヘ差出スヘシ

本項ノ場合ニ在テ町村長ハ實際ニ就キ調査ヲ爲シ其意見ヲ副申スヘシ

第二十二條 營業稅雜種稅ノ營業者ニシテ非常ノ災害又ハ疾病等ノ爲メニ究追シ納税スル能ハサルモノ(商業)仲買質屋金穀貸付ヲ除ク)料理屋待合茶屋遊船宿飲食店湯屋雇人請宿ハ除ク)ハ事由ヲ詳記シ其町村内ノモノ二名以上ノ保証ヲ受ケ疾病ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ郡役所ヲ經テ出願スヘシ
但願書ハ納期末日迄ニ町村役場ヘ差出スヘシ

本項ノ場合ニ在テ町村長ハ實際ニ付キ調査ヲ爲シ其意見ヲ副申スヘシ

第二十三條 營業稅雜種稅ノ營業者ニシテ流行病及ヒ其他ノ事故ニ依リ營業ヲ停止シタルモ其停止中ニ係ル免稅ハ其金額及日數ヲ詳記シ郡役所ヘ届出

ヘシ

第二十四條 戶數割ヲ免除スヘキ者(町村會ノ評決ニ依リ免除スヘキモノハ除ク)ハ町村長ニ於テ取調ヘ其旨郡長ヘ具申スヘシ

第三章 諸届及鑑札

第二十五條 商業中卸賣商及小賣商ノ内古物商並賣藥區域外製劑販賣旅籠屋(牛馬宿)賣藥請賣營業ノ許可ヲ得タルモノハ其科目及屋敷番號許可ノ年月日並ニ税區内同業者(同業者ナキモノハ他ノ營業者)三名以上ノ權衡ヲ取リタル税額ヲ記シ行商セシムルモノハ其賣子ノ姓名年齢ヲモ記入シ其同業者營業者總代人ノ保証ヲ得テ郡役所ヘ届出スヘシ

第二十六條 商業中仲買質屋金穀貸付ヲ開業セントスルモハ其科目屋敷番號收入利子金及口錢手數料等行商スルモノハ年齢ヲモ詳記シ其町村内同業者(同業者ナキモノハ他ノ營業者)三名以上ノ保証ヲ得テ郡役所ヘ届出テ鑑札ヲ受クヘシ

但質屋ハ營業許可ノ年月日ヲモ記入スヘシ鑑札ハ受クルニ及ハス
本項ノ場合ニ在リテ町村長ハ其當否ノ調査ヲ爲シ意見ヲ副申スヘシ

第二十七條 斃牛馬ノ卸小賣ヲ開業セントスルハ其業名場所及斃牛馬取扱許可ノ年月日並其稅區内同業者(同業者ナキハ他ノ營業者)三名以上ノ權衡ヲ取リタル稅額行商スルモノハ年齡ヲモ記シ其同業者及營業總代人ノ保證ヲ受ケ郡役所ヘ届出鑑札ヲ受クヘシ

第二十八條 區畫ヲ定ムル漁業採藻ヲ開業セントスルハ其業名及地名反別ヲ詳記シ並間度ヲ記入セル近傍地形明瞭ノ圖面及從來專用ノ慣例アル場所ハ其慣例ノ証左若シ証左ナキモノハ其町村及近傍町村人民ノ保證書又從來專用ノ慣例ナキ場所ハ該場ニ關係アル市町村人民ノ承諾書ヲ添ヘ郡役所ヘ届出鑑札ヲ受クヘシ但價例ノ証左ハ參照ノ上之ヲ返付ス
相當ノ事故ナクシテ其保證書又ハ承諾書ヲ與ヘサル市町村人民アルハ其事由ヲ詳記セス書面ヲ添ヘ届出スヘシ此場合ニ於テハ關係ノ郡長ハ實地ヲ檢査シ支障無之ト認ムルハ鑑札ヲ付與スルコトアルヘシ

第二十九條 商業(第廿五條乃至第廿七條ニ掲グルモノモ除ク)料理屋待合茶屋遊船宿飲食店湯屋雇人受宿ヲ開業セントスルハ其科目及屋敷番號並其稅區内同業者(同業者ナキハ他ノ營業者)三名以上ノ權衡ヲ取リタル稅額行商セシムルモノハ其賣子ノ姓名年齡ヲモ記シ其同業者及營業總代人ノ保證ヲ得テ郡役所ヘ届ケ出テ鑑札ヲ受クヘシ
但湯屋雇人受宿ノ營業ニ限り許可ヲ得タルハ本文ノ手續ヲ爲シ鑑札ハ受クルニ及ハス

第三十條 第廿五條乃至第廿九條ニ掲グル項目外ノモノ(船車ハ除ク)ヲ開業セントスルハ左ノ事項ヲ詳記シ營業總代人アルモノハ其總代人アルハ其取締人ノ保證ヲ得テ郡役所ヘ届出テ日稅及市場臨時營業ノ外ハ彈テ鑑札ヲ受クヘシ
但職工ノ内銃鉋ニ限り許可ヲ得タルハ本文ノ手續ヲ爲シ鑑札ハ受クルニ及ハス

- 一 工事受員職工場遊藝師匠ハ其業名年齡
- 二 紺屋ハ該職場ノ屋敷番號並瓶數
- 三 石版活版銅版印刷紡績綿操綿打米搗ハ其職場ノ屋敷番號並器械數
- 四 理髮人ハ弟子ノ有無
- 五 遊藝稼人ハ其業名藝名並年齡

- 六 相摸ハ頭取又ハ弟子ノ有無並藝名
- 七 俳優期間ハ名年齢
- 八 藝妓ハ藝名年齢及營業地名並屋敷番號
但酌取ハ其譯トモ
- 九 演劇興行人寄席ハ其場所並最高額ノ木戸錢棒代若クハ場代興行人寄席
ハ其業名
但臨時營業ハ日數共
- 十 芝居茶屋ハ其場所
但臨時營業ハ日數共
- 十一 遊技場ハ其業名及場所
但臨時營業ハ日數トモ
- 十二 市場ハ其業名及場所
但臨時營業ハ日數共
- 十三 遊覽所ハ其場所並ニ見料
但臨時營業ハ日數共

- 十四 水車ハ水車場ノ地名各種ノ白數器械數並水車場設置許可ノ年月日
- 十五 乘馬ハ其頭數
- 十六 屠畜ハ其名及場所並屠場設置許可ノ年月日
- 十七 區畫ヲ定メサル漁業採藻ハ其業ニ要スル人員(免除人名年齢ヲモ分
記スヘシ)季節漁名鵜ノ頭數
- 十八 自轉者ハ其輛數
- 十九 數項ヲ除クノ外ハ其科目及番地
- 第三十一條 演劇興行人寄席遊覽所ニシテ納稅后木戸錢棒代場代敷場代見料
ノ増減並臨時芝居茶屋市場演劇興行人寄席遊技場遊覽所ニシテ納稅后營業
日數ノ増減ハ其都度郡役所ヘ届ケ出ベシ
- 第三十二條 營業稅雜種稅ノ内左ノ各項ニ該當スルモノハ其時々鑑札ヲ添ヘ
郡役所ヘ届出ヘシ
紺屋ハ瓶數増減
印刷、紡績、綿繰、綿打、米搗ハ器械台數ノ増減水車ノ内挽白ハ白數、綿
繰、釘切、綿打、油蠟絞、ハ器械臺數、紡績ハ錘數ノ増減

乘馬ハ頭數ノ増加

自轉車ハ輛數ノ増減

區畫ヲ定メサル漁業採藻ニ要スル人員ノ増減職工并ニ區畫ヲ定メサル
漁業採藻ハ各其科目中ノ兼業理髮人遊藝稼人相撲ハ等級ノ異動藝妓中
通俗酌取ヨリ藝妓ニ又ハ藝妓ヨリ酌取ニ轉スル場合

水車中僧都ヨリ水車ニ又ハ水車ヨリ僧都ニ轉スル場合

第三十三條 營業稅ノ内仲買質屋金穀貸附營業者ニシテ前年度ヨリ繼續ノモ
ノハ收入利子金及口錢手数料等ヲ詳記シ其町村内同業者（同業者ナキハハ
他ノ營業者）三名以上ノ保証ヲ取り四月三十日迄ニ郡役所ヘ届出ヘシ

本項ノ場合ニ在テ町村長ハ其當否ノ調査ヲ爲シ意見ヲ副申スヘシ

第三十四條 營業稅雜種稅免稅者ノ内年齢十五年未滿六十年以上ノ職工理髮
人及盲啞聾等ノ癡疾者ニシテ遊藝師匠又ハ遊藝稼ヲナス者ハ郡役所ヘ届出
鑑札ヲ受ケヘシ

但年齢ニ依リ免稅ノ届書ハ其町村役場ニ於テ戸籍簿ト照合濟ノ証印ヲ受
ケ本項ノ手續ヲナスヘシ

第三十五條 數種ノ業ヲ兼ヌルモノハ其業名ヲ列記シタル鑑札一葉ヲ受ケ各
別ニ納稅スヘキモノハ毎種ノ鑑札ヲ受ケヘシ

第三十六條 居宅外ニ於テ營業ヲナスモノハ必ス鑑札ヲ携帯スベシ其鑑札ノ
閱覽ヲ求ムルモノアルハ之ヲ示スベシ

第三十七條 鑑札ハ賣買貸借讓受讓渡ヲ爲ストテ得

第三十八條 鑑札ハ改姓名代換轉業等ノ節ハ書換ヲ請ヒ災害又ハ過誤ニ依リ
紛失棄損セシハ其事由ヲ詳記シ更ニ下渡ヲ請フヘシ

第三十九條 廢業並ニ他府縣並本縣廣島市内ヘ轉居スルモノハ郡役所ヘ届出
ヘシ但鑑札アルモノハ之ヲ返納スヘシ

本縣下甲郡役所々轄内ヨリ乙郡役所々轄内ヘ轉居スルモノハ甲郡役所ヘ届
出鑑札アルモノハ之ヲ返納シ乙郡役所ヘ届出鑑札ヲ受ケヘキモノハ下渡ヲ
請フヘシ此場合ニ在テ税金既納ノモノハ其領收証ヲ添付スヘシ但シ領收証
ハ参照ノ上之ヲ返付ス

一郡役所々轄内ニ於テ甲町村ヨリ乙町村又ハ一町村内ニ在テ轉居スルモノ
ハ郡役所ヘ届ケ出テ鑑札アルモノハ書換ヘテ請フヘシ

一前各項ノ届書ハ營業總代人ノ設ケアルモノハ其連署ヲ得テ届出ヘシ

第四十條 季節營業ハ満期后速ニ其鑑札ヲ返付スヘシ

第四十一條 廢業ハ郡役所ニ於テ其届書ヲ受理シタル日ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條 郡役所ノ鑑札ヲ受クヘキ諸業ニ在テハ鑑札領収ノ上ニアラサレハ開業スルヲ得ス

第四章

雜則

第四十三條 商業稅區料理屋待合茶屋遊船宿稅區飲食店湯屋雇人請宿稅區ハ

營業者ノ多寡並土地ノ廣狹ヲ酌量シ便宜營業總代人ヲ設クルモノトス

但シ便宜ニ依リテハ營業總代人ヲ置カサルコトヲ得

第四十四條 營業總代人設置ノ區域ハ郡長若クハ町村長ニ於テ之ヲ定メ其區域内ニ告示シ同時ニ當廳ヘ申報スヘシ

第四十五條 營業總代人ハ一區域内ニ二名以上七名以下ヲ置キ調稅一切ノ事

ヲ取扱ハシムヘシ但惣代人員及任期ハ郡長若クハ町村長ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ

第四十六條 營業總代人各營業人ヲシテ二倍ヲ撰舉セシメ郡長若クハ町村長

其内ニ就テ之ヲ撰ヒ余ハ補充員ニ充テ補充ヲ要スルキハ郡長若クハ町村長ニ於テ適宜之ヲ補充スヘシ但補充員ナキ場合ニ於テハ本條ニ依リ更ニ撰舉スルモノトス郡長若クハ町村長ハ惣代人ノ住所姓名ヲ其區域内ヘ報告シ同時ニ之レヲ申報スヘシ

第四十七條 營業總代人ノ手當及事務上ニ關スル諸費ハ各營業者ニ於テ之ヲ負擔スルモノトス

第四十八條 營業總代人ハ組合町村會若クハ町村會ニ於テ定メタル各個ノ課額方法ニ依リ四月一日現在營業人ノ等級其他個數等ヲ取調ヘ組合町村會ニ於テ定メタル者ハ町村長ヲ經テ(町村長ハ當否ヲ調査シ其意見ヲ副仲スヘシ)郡長ノ認可ヲ受ケ町村會ニ於テ定メタル者ハ町村長ノ認可ヲ受クヘシ但營業總代人ニ於テ認可ヲ得タルキハ速ニ各營業者ニ通知スヘシ

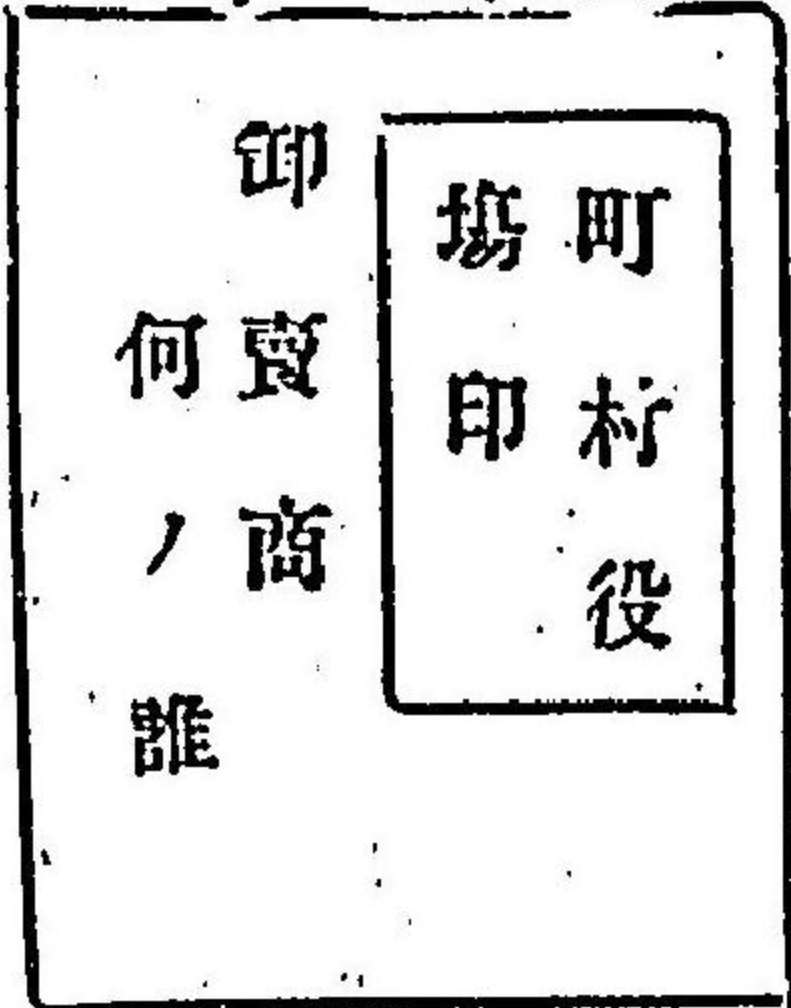
第四十九條 郡長若クハ町村長ハ第四十六條撰舉第四十八條取調期限ヲ定ムヘシ

第五十條 總テ納稅期迄ニ販宅シ能ハサル所用ニ依リ他出スルモノハ納稅代人ヲ定メ連署ノ上町村長ヘ届置クヘシ

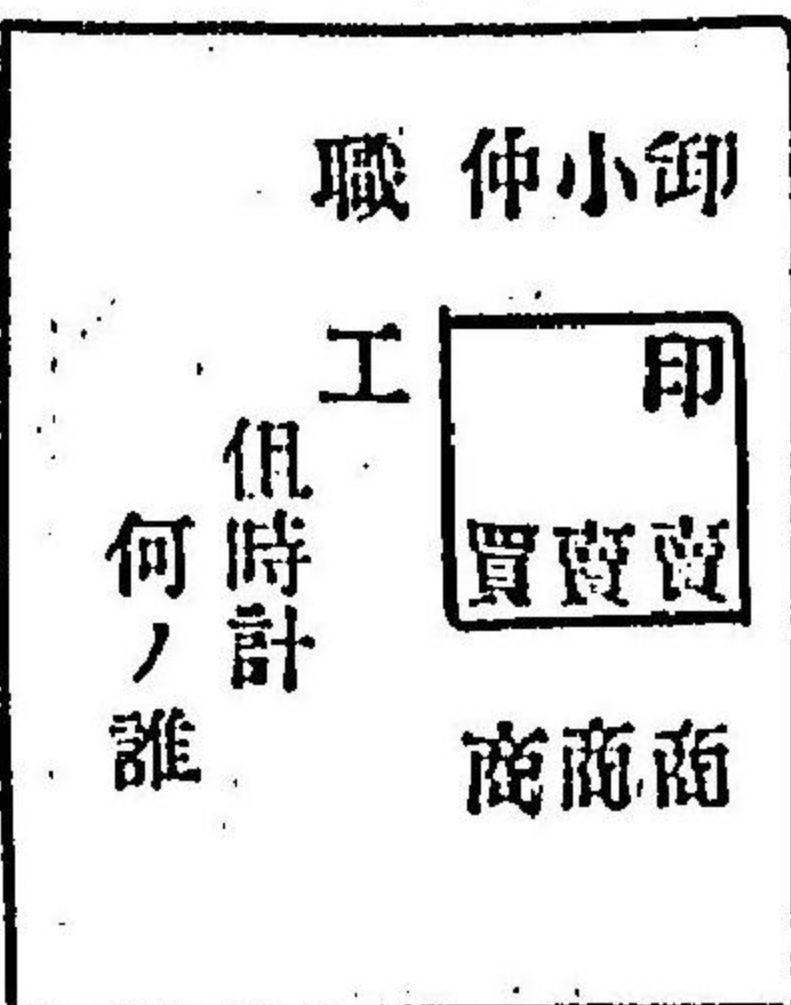
第五十一條 凡ノ營業者ハ左ノ模形ニ依リ標札ヲ製シ町村役場ノ捺印ヲ受ケ
戶外若クハ場外ニ掲グヘシ

但區畫ヲ定ムル漁業採藻ハ區畫專用セル場所ノ四至經界ヘ標木ヲ建設ス

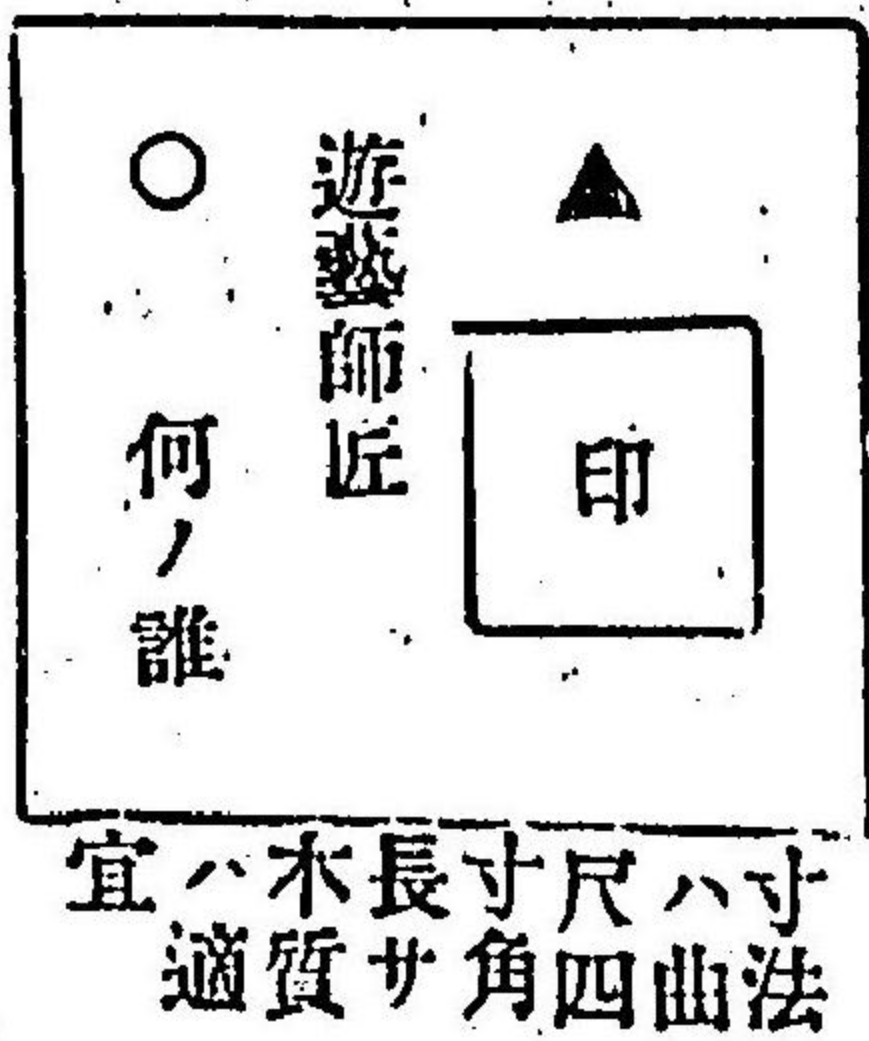
寸法ハ曲
尺一尺
法五寸以
上木質ハ
巾五寸以
上木質ハ
適宜以下
之ニ倣フ



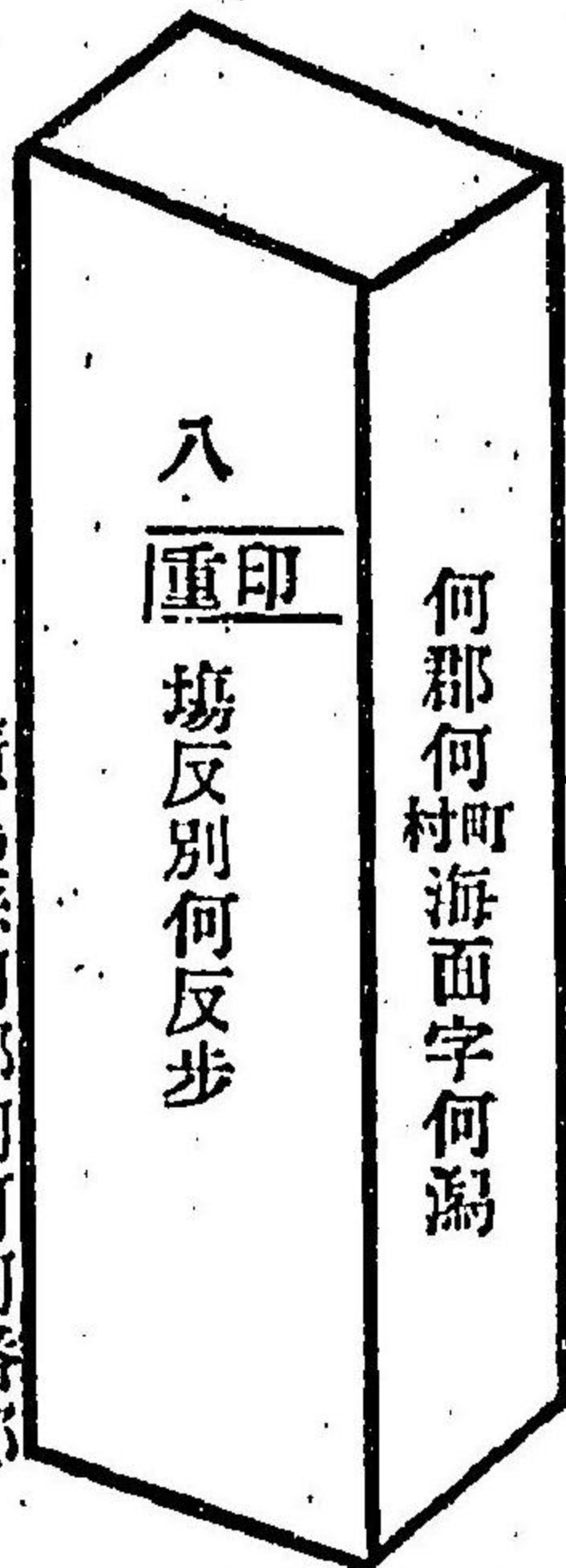
一業ヲナスモノノ例



數業ヲナスモノノ例



寸法ハ曲
尺四寸
法四角
長サ
木質
適宜



何ノ誰

余ハ右ノ例ニ倣フ

理髮人遊藝稼人相摸俳優藝妓(通俗酌取共)ハ業名ノ上ニ等級全部免税ノモノ
ハ▲印ノ位置ヘ(免除)ノ二字ヲ記入シ左ニ列記スルモノハ○印ノ位置ヘ左ノ
例ニ依リ但書ヲ加フヘシ

職工ハ但時計(余ハ之ニ準シ其職名ヲ記入スヘシ)

紺屋ハ但瓶何個

石版 活版 銅版 印刷 紡績 綿繰 綿打 米搗ハ 但器械何臺

遊藝師匠遊藝稼人ハ但淨溜理(余ハ之レニ準シ其技名ヲ記入スベシ)

遊技場ハ 但玉突 (余ハ之ニ準シ其名稱ヲ記入スヘシ)

藝妓ハ 但酌取

水車ハ 但稿白何個又ハ挽白何個若クハ器械 何臺

乘馬ハ 但何頭

漁業ハ 但雜網漁要人員何人 (余ハ之ニ準シ漁名人員ヲ記入スヘシ)

内何人免税

採藻ハ 但要人員何人

内何人免稅

自轉車ハ 但何輛

●縣令甲第五十六號

明治二十二年四月一日

市部地方稅徵收例別冊ノ通相定ム

市部地方稅徵收例

第一章

納稅

第一條 地租割ハ四月一日七月一日ノ現在地租額ニ據リ之レヲ徵收ス

第二條 地租割ハ其年額ヲ折算シ左ノ二期ニ上納スヘシ

但徵收期前月初日以前荒地成ニシテ免租出願ノモノ徵收期限后ニ至リ免

租ナラサルモノアルキハ其處后十日限り徵收ス

第一期 五月一日ヨリ同三十一日迄

第二期 八月一日ヨリ同三十一日迄

第三條 營業稅雜種稅ノ内年稅ハ四月一日十月一日ノ現在ニ據リ之ヲ徵收ス

第四條 營業稅雜種稅ノ内年稅ハ其年額ヲ折半シ左ノ二期ニ上納スヘシ

第一期 六月十五日ヨリ七月十五日迄

第二期 十一月一日ヨリ同三十日迄

第五條 營業稅雜種稅ノ内店舗貯藏所客間坪數ノ増加及第三十七條ニ掲クル

各科目ノ内個數ノ増加并低稅ノ科目ヨリ高稅ノ科目ヲ兼子若クハ低稅科目

ヨリ高稅ノ科目ニ轉スル増加ノ税金ハ其異動届出ノ節上納スベシ

第六條 雜種稅ノ内季節稅ハ營業届出ノ節其全額ヲ上納スヘシ

第七條 雜種稅ノ内月稅ハ毎月一日ヨリ十六日マテニ其全額ヲ上納スヘシ

第八條 雜種稅ノ内日稅ハ毎月一日ヨリ十六日迄ニ其月中ノ税金ヲ一時ニ上

納スベシ

第九條 雜種稅ノ内日稅臨時營業ハ開業日數ヲ豫定シ開業届出ノ節其税金ヲ

上納スベシ

第十條 雜種稅ノ内市場稅ハ每一ヶ月分仕切帳及ヒ賣上金高ヲ詳記シタル帖

簿ヲ翌月一日ヨリ五日迄ニ市役所ニ出シ檢査ヲ受ケ同時ニ税金上納スベシ

臨時市場稅ハ日數五日以上ハ五日毎ニ五日未滿ハ閉場翌日帖簿ノ檢査ヲ受

ケ同時ニ上納スヘシ但帖簿檢査ノ上之ヲ返付ス

第十一條 營業稅ノ内工事請負ヒ稅ハ請負ノ都度其金高ヲ詳記シタル書面ヲ

市役所へ出シ検査ヲ受ケ同時ニ税金上納スベシ

第十二條 雜種税ノ内船車賣買讓與解破等ニ係ル納税區別ハ國税上納ノ例ニ準スルモノトス

第十三條 雜種税ノ内乘馬水車自轉車ノ賣買讓與ニ係ル納税區別ハ船車國税上納ノ例ニ準スルモノトス

第十四條 雜種ノ内屠畜税ハ每一ヶ月分臨監官吏ノ検査ヲ受ケタル帳簿ヲ添ヘ翌月一日ヨリ五日迄ニ税金上納スベシ但帖簿ハ參照ノ上之ヲ返付ス

第十五條 新ニ開業ノモノハ年税ハ其半額月税ハ其全額月税ノ内臨時營業ニアラザルモノハ其月中ノ全額ヲ營業届出ノ節上納スヘシ但船車税ニ限り國税ト同時ニ之ヲ納ムベシ

第十六條 月税ノモノ期限内ニ税金納濟ノ后其月十五日以内ニ廢業又ハ轉業セシキハ后半月分ノ税金ヲ返附ス

第十八條 日税中演劇興行人寄席遊覽所ニシテ納税后錢棒代場敷代等及見料ヲ増減セシトキハ其都度追納又ハ下戻ヲ爲スヘシ

第十九條 家屋税ハ其年額ヲ折半シ左ノ二期ニ上納スヘシ

第一期 五月一日ヨリ同三十一日迄

第二期 十一月一日ヨリ同三十日迄

第二章

免除

第二十條 地租割ノ免除ヲ請ハント欲スルモノハ作物損亡又ハ収獲品亡失ノ實況及納税シ能ハサルモノハ事由ヲ詳記シ其罹災地近傍ノ地主二名以上營業物代人アルモノハ其物代人ノ保證ヲ受ケ納期末日迄ニ市役所ヲ經テ願出ヘシ

本項ノ場合ニ在テ市長ハ實際ニ就キ調査ヲ爲シ其意見ヲ副仲スヘシ

第二十一條 營業雜種税ノ營業者ニシテ非常ノ災害又ハ疾病等ノ爲メニ究迫シ納税スル能ハサルモノハ事由ヲ詳記シ其近傍ノ者二名以上營業物代人アルモノハ其物代人ノ保證ヲ受ケ納期末日迄ニ市役所ヲ經テ願出ヘシ但シ疾病ハ醫師ノ診斷書ヲ添ユヘシ

本項ノ場合ニ在テ市長ハ實際ニ付キ調査ヲ爲シ其意見ヲ副仲スベシ

第二十二條 營業税雜種税ノ營業者ニシテ流行病及其他ノ事故ニ係リ營業ヲ停止シタル片其停止中ニ係ル免税ハ其金額及日數ヲ詳記シ營業物代人アル

モノハ其惣代人ノ保証ヲ得テ市役所へ届出ヅベシ

第三章

諸届及鑑札

第二十三條 營業稅中ノ營業ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ營業惣代人アルモノハ其惣代人ノ保証ヲ得テ市役所へ届出テ鑑札ヲ受クベシ

但古物商、質屋、賣藥、區城外製劑販賣、旅籠屋、木錢宿、下宿屋、賣藥請賣、(店舗ノ設ケナキモノニ限ル)賣藥行商職工ノ内銃砲ノ開業ニ限り許可ヲ得タル片本文ノ手續ヲナシ鑑札ハ受クルニ及ハス

一 卸賣小賣商ハ種目收入金額店舗貯藏所(疊板土間等ヲ總稱ス)ノ坪數(六尺三寸四寸ヲ以テ一坪トス一坪未満ハ一坪トシ一坪以上ノ端數ハ四捨五入ヲ以テ坪位ニ止ム)並該地々番及一反步當リノ他價但貯藏所ニシテ二階アルモノハ其區別並地價未定及官地ニシテ近傍類地ノ地價ニ依リタルモノハ其類地ノ字地番地目反別地價トモ

斃牛馬卸賣小賣ハ斃牛馬取扱許可ノ年月日

三 行商露店ハ種目收入金額年齡賣子アルモノハ其姓名年齡

但行商ニシテ荷積車ヲ使用スルモノ露店ニシテ一坪以上ノモノハ其

譯トモ

三 賣藥請賣店舗ノ設ケナキモノニ限ル賣藥行商ハ鑑札ノ枚數年齡賣子アルモノハ其姓名年齡

四 葬送取扱ハ收入金額店舗(疊板土間ヲ總稱ス)ノ坪數并該地々番及一反步當リノ地價

但地價未定及官地ニシテ近傍類地ノ地價ニ據リタルモノハ其類地ノ字地番地目反別地價トモ

五 仲買質屋金穀貸附而替屋爲替店陸運回漕雜商ハ收入利子收益金又ハ口錢手數料等ノ金額

六 旅籠屋ハ客間ノ坪數收入金額營業地名

七 木賃宿下宿屋牛馬宿ハ收入金額營業地名

八 工事請負職工ハ其業名年齡

九 綱打ハ其工場ノ屋敷番號又ハ地番並坪數

十 紺屋ハ其工場ノ屋敷番號並瓶數

十一 石版銅版活版紡績綿繰打米搗反物艶付ハ其工場ノ屋敷番號並器械

數

- 十二 紡績米搗(蒸瀝力ニ依ルモノ)ハ其工場ノ屋敷番號並錘數搗臼數
第二十四條 雜種稅中(船車ヲ除ク)ノ業ヲ爲ントスルモノハ左ノ事項ヲ記載
シ營業惣代人アルモノハ其惣代人ノ保証ヲ得テ市役所ヘ届出テ日稅及市場
臨時營業ノ外ハ渾テ鑑札ヲ受クヘシ
但湯屋雇人請宿ノ營業ニ限リ許可ヲ得タルトキ本文ノ手續ヲ爲シ鑑札ハ
受クルニ及ハス
- 一 料理屋ハ客間ノ坪數收入金額營業地名
- 二 仕出料理ハ店舗(疊板土間等ヲ總稱ス)ノ坪數收入金額
- 三 待合茶屋ハ客間ノ坪數收入金額
- 四 飲食店ハ店舗(疊板土間等ヲ總稱ス)ノ坪數收入金額營業地名
- 五 飲食店ハ收入金額但露店一坪以上ノモノハ其坪數トモ
- 六 湯屋ハ浴室(湯壺ヲ云フ)ノ坪數收入金額但入浴ノ午前午後ノ區別ト
モ
- 七 雇人請宿ハ口入人員收入金額

- 八 芝居茶屋ハ其場所但臨時營業ハ日數トモ
- 九 理髮人ハ弟子ノ有無
- 十 遊藝師匠ハ其業名
- 十一 遊藝稼人ハ其業名藝名並年齡
- 十二 相撲ハ頭取又ハ弟子ノ有無並藝名
- 十三 俳優習間ハ藝名年齡
- 十四 藝妓ハ藝名年齡及酌取ハ其譯トモ
- 十五 市場ハ其業名及場所 但臨時營業ハ日數共
- 十六 演劇興行人寄席ハ其場所並ニ最高額ノ木戶錢棹代若クハ場代敷場代
興行人寄席ハ其業名
但臨時營業ハ日數トモ
- 十七 遊覽所ハ其場所並見料 但臨時營業ハ日數共
- 十八 遊技場ハ其業名及場所 但臨時營業ハ日數共
- 十九 水車ハ水車場ノ地名各種ノ白鐵器械敷並水車場設置許可ノ年月日
- 二十 乘馬ハ其頭數

- 廿一 屠畜ハ其業名及場所並屠場設置許可ノ年月日
- 廿二 區畫ヲ定ムル漁業採漁ハ其業名及地名反別並間度ヲ記入セル近傍地形明瞭ノ圖面及從來專用ノ慣例アル場所ハ其慣例ノ証左若シ証左ナキモノハ其大字及近傍大字若クハ町村人民之保証書又從來專用慣例ナキ場所ハ該島ニ關係アル大字若クハ町村人民ノ承諾書但シ慣例ノ証左ハ參照ノ上之レヲ返付ス
- 廿三 區畫ヲ定メサル漁業採漁ハ其業ニ要スル人員（免除人名年齢ヲモ分記スヘシ）季節漁名鵜ノ頭數
- 廿四 自轉車ハ其輛數
- 第二十五條 區畫ヲ定ムル漁業採漁營業届出ノ際相當ノ事故ナクシテ第二十四條第廿二項ニ掲グル保証書又ハ承諾書ヲ與ヘサル大字若クハ町村人民アル片ハ營業者ハ其事由ヲ詳記セル書面ヲ添ヘ届出ヘシ此場合ニ於テハ市長ハ實地ヲ抽查シ支障無之ト認ムル片ハ鑑札ヲ付與スルコトアルヘシ
- 第二十六條 演劇興行人寄席遊覽所ニシテ納稅后木戸錢棹代場代敷場代見料ノ増減並臨時芝居茶屋市場演劇興行人寄席遊技場遊覽所ニシテ納稅后營業

- 日數ノ其都度市役所へ届出ヘシ
- 第二十七條 総テ坪數届出后増減シタル片ハ其坪數及敷地々番一反歩當リ地價等詳記シ營業物代人アルモノハ其物代人ノ保証ヲ得テ其都度市役所へ届出ヘシ
- 第二十八條 營業稅雜種稅免稅者ノ内年齢十五年未滿六十年以上ノ職工理髮人及盲聾等ノ痲疾者ニシテ遊藝師匠又ハ遊藝稼ヲ爲スモノハ市役所へ届出鑑札ヲ受ケヘシ
- 第二十九條 數種ノ業ヲ兼ヌルモノハ其業名ヲ列記シタル鑑札一葉ヲ受ケ各別ニ納稅スヘキモノハ毎種ノ鑑札ヲ受ケヘシ
- 第三十條 居宅外ニ於テ營業ヲ爲スモノハ必ス鑑札ヲ携帯スヘシ其鑑札ノ閱覽ヲ求ムルモノアルトキハ之ヲ示スヘシ
- 第三十一條 鑑札ハ賣買貸借讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス
- 第三十二條 鑑札ハ改姓名代換轉業等ノ節ハ書換ヲ請ヒ災害又ハ過誤ニ依リ紛失棄損セシトキハ其事由ヲ詳記シ更ニ下ケ渡シヲ請フヘシ
- 第三十三條 廢業並他府縣本縣郡内へ轉居スルモノハ市役所へ届出鑑札アル

モノハ之ヲ返納スヘシ但營業總代人ノ設ケアルモノハ其連署ヲ得テ届出ヘシ

第三十四條 季節營業ハ満期后速ニ其鑑札ヲ返納スヘシ

第三十五條 廢業ハ市役所ニ於テ其届書ヲ受理シタル日ヲ以テ之レヲ定ム

第三十六條 市役所ノ鑑札ヲ受クヘキ諸業ニ在テハ鑑札領収ノ上ニアラサレハ營業スルヲ得ス

第三十七條 營業稅雜種稅ノ内左ノ各項ニ該當スルモノハ其時々鑑札ヲ添ヘ市役所ヘ届出ヘシ

- 綱打ハ工場坪數ノ増減 紺屋ハ瓶數ノ増減 印刷、紡績、綿繰、綿打、米搗、反物艶付ハ器械臺數ノ増減 紡績(蒸氣力ニ依ルモノ)ハ錘數ノ増減 米搗(蒸氣力ニ依ルモノ)ハ搗臼數ノ増減 水車ノ内搗臼ハ臼數紡績、綿繰、釘切、綿打、油
- 蠶綫、ハ器械臺數ノ増減
- 乘馬ハ頭數ノ増減 自轉車ハ輛數ノ増減 區畫ヲ定メサル漁業採藻ニ要スル人員ノ増減 職工并ニ區畫ヲ定メサル漁業採藻ハ各其科目中ノ兼業理髮人、遊藝稼人、相撲ハ等級ノ異動、藝妓中通俗酌取ヨリ藝妓ニ又ハ藝

妓ヨリ酌取ニ轉スル場合水車中都都ヲ水車ニ又ハ水車ヨリ僧都ニ轉スル場合

第三十八條 家屋稅ヲ賦課スヘキ民有建物ヲ雜築セシキハ所有主ハ左ノ各項

ニ依リ地券一筆限リ建物坪數(瓦葺ト非瓦葺ヲ區別)並敷地一反步當リ地價ヲ取調ヘ其時々市役所ヘ届出ヘシ

一 建物ハ使用ノ如何ニ拘ハラズ彈テ桁行梁間ニ依リ建坪ヲ算出スヘシ

二 一筆地内ニ在ル建物ニシテ其所有主ノ異ナルモノハ各別ニ取調フヘシ

三 建物坪數算出法ハ六尺三寸四方ヲ以テ一坪トシ其端數ハ四捨五入勺位ニ止ムヘシ

四 建物ノ敷地々價ハ地券面ニ依ルヘシト雖凡地價未定若クハ官地ハ近傍類地ニケ所以上ノ比較ヲ取リタル一反步當リ地價並其比較地ノ字地番地目反別地價等列記スヘシ但官地ニシテ借地料又ハ借用料ヲ收ムルモノハ該料金査定ニ用ヒタル地價ニ據ルヘシ此場合ニ在テハ其旨ヲ記載シ比較地ノ字地番等ヲ列記ハ要セス

五 會社其他共有建物ハ社長又ハ頭取若クハ物代人等署名スヘシ又他府縣

並本縣郡内ノモノニシテ所有スル建物ハ其所在地ノ代人ヨリ届出ルモ妨ケナシ

第三十九條 建物ヲ増築又ハ改築シ若クハ模様換等ノ爲メ建坪ニ増減ヲ生シ又ハ種類ヲ變更(倉庫物置別棟ニ限ル)ト本屋離座敷又ハ其他使用ト相互變更スルモノヲ云フ(セシキハ其時々市役所へ届出ヘシ)

第四十條 建物ヲ賣買讓與シタルキハ双方連署ノ上其時々市役所へ届出ヘシ
第四十一條 水火風震災等ニ依リ建物ヲ亡失若クハ顛覆シタルキハ其時々市役所へ届出ヘシ

第四十二條 第三十七條乃至四十一條届書式ハ市長ニ於テ之レヲ収ムヘシ

第四章

雜則

第四十三條 商業(賣藥請賣)店舗ノ設ケナキモノニ限ル(賣藥行商ヲ除ク)料理屋待合茶屋遊船宿飲食店湯屋雇人請宿ハ營業惣代人ヲ設クルモノトス

第四十四條 營業惣代人設置ノ區域ハ市長ニ於テ之ヲ定メ其区域内ニ告示シ同時ニ當廳へ申報スヘシ

第四十五條 營業惣代人ハ一区域内ニ二名以上七名以下ヲ置キ調稅一切ノ事

ヲ取扱ハシムヘシ

但惣代人員及任期ハ市長ニ於テ適宜之レヲ定ムヘシ

第四十六條 營業惣代人ハ各營業人ナシテ二倍ヲ撰舉セシメ市長其内ニ就テ之ヲ撰ヒ余ハ補充員ニ充テ補充ヲ要スルキハ市長ニ於テ適宜之ヲ補充スヘシ但補充員ナキ場合ニ在テハ本條ニ依リ更ニ撰舉スルモノトス

市長ハ惣代人ノ住所姓名ヲ其区域内へ報告シ同時ニ之ヲ當廳ニ申報スヘシ
第四十七條 營業惣代人ノ手當及事務上ニ關スル諸費ハ各營業者ニ於テ之ヲ負担スルモノトス

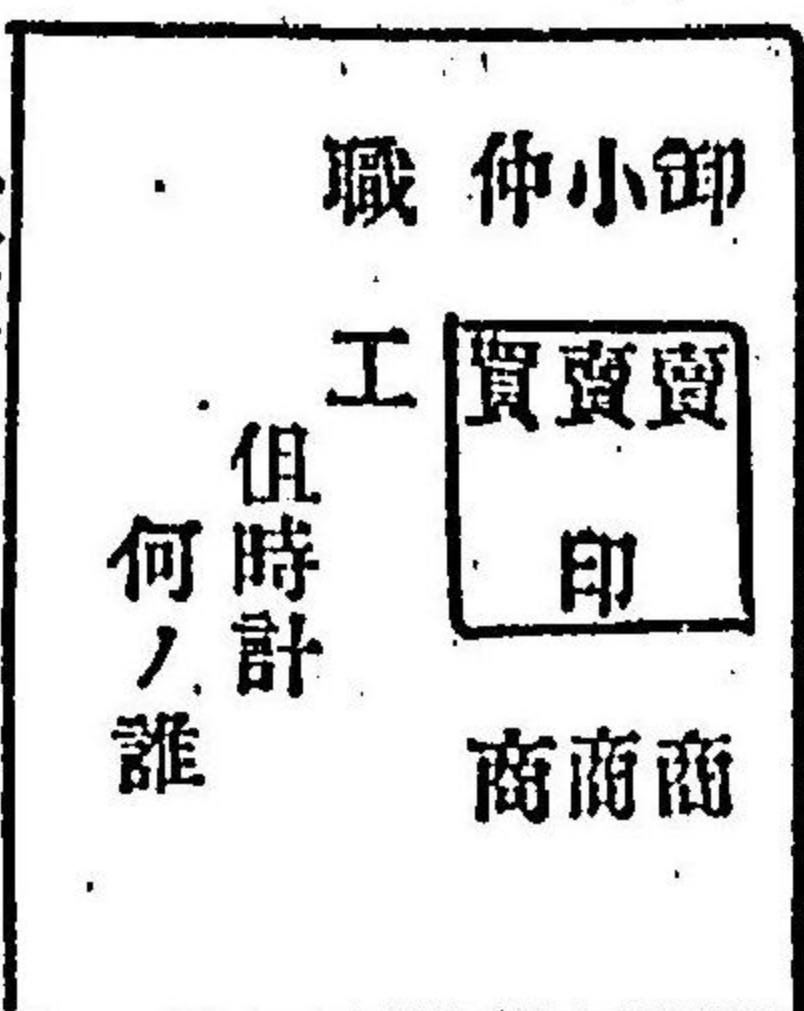
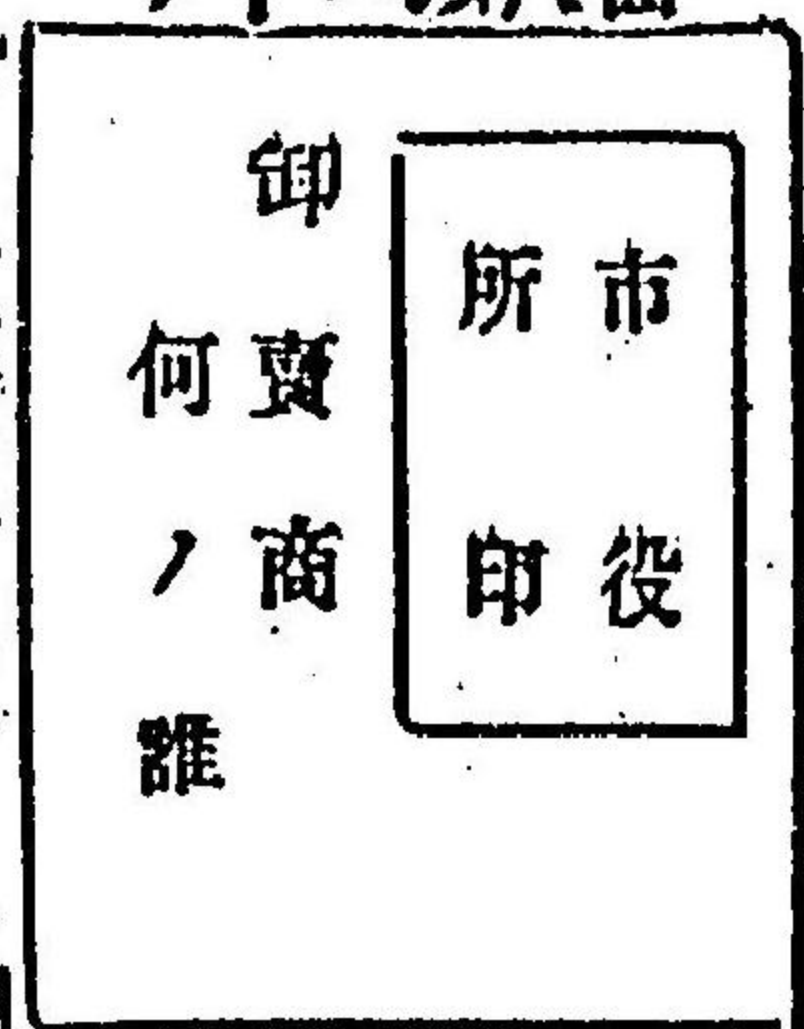
第四十八條 營業惣代人ハ課目課額ニ依リ四月一日現在營業人ノ店舗貯藏所等ノ坪數並ニ諸収入金等ヲ取調ヘ市長ノ認可ヲ受ケヘシ
但認可ヲ受ケタルキハ速ニ各營業人ニ通知スヘシ

第四十九條 第四十六條撰舉第四十八條取調期限ハ市長ニ於テ之ヲ定ムヘシ
第五十條 總テ納稅期迄ニ歸宅シ能ハサル所用ニ依リ他出スルモノハ納稅代人ヲ定メ連署ノ上市役所へ届出ヘシ

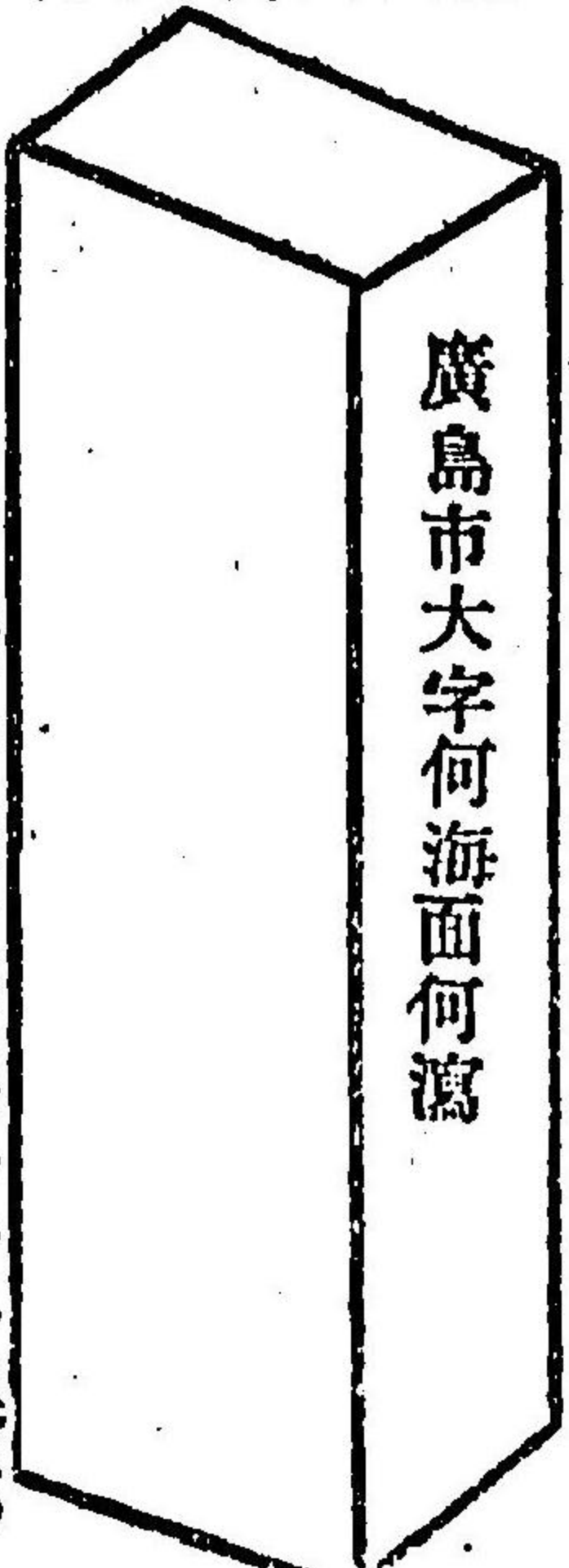
第五十一條 凡テ營業者ハ左ノ摸形ニ依リ標札ヲ製シ市役所ノ捺印ヲ受ケ戶

外若クハ場外ニ掲クヘシ
但シ區畫ヲ定ムル漁業採藻ハ區畫專用セル場所ノ四至經界ハ標木ヲ建設スヘシ

寸法ハ曲
尺堅一尺
巾五寸以
上木質ハ
適宜以下
之ニ做フ



寸法ハ曲
尺四角
長寸サ
木質ハ
宜ハ適



余ハ右ノ例ニ做フ

理髮人遊藝稼人相撲俳優藝妓ハ業名ノ上ニ等級全部免税ノモノハ▲印ノ位置
ヘ(免除)ノ二字ヲ記入シ左ノ列記スルモノハ○印ノ位置ヘ左ノ例ニ依リ但書
ヲ加フヘシ

職工ハ 但時計(余ハ之ニ準シ其職名ヲ記入スヘシ)

網打ハ 但工場何坪

紺屋ハ 但瓶何個

石版活版銅版印刷紡績綿綿打米搗反物艶付ハ 但器械何臺

紡績(蒸氣力ニ依ルモノハ)但錘何個

米搗(蒸氣力ニ依ルモノハ)但搗臼何個

遊藝師匠遊藝稼人ハ 但淨溜理(余ハ之レニ準シ其技名ヲ記入スヘシ)

遊技場ハ 但玉突(余ハ之ニ準シ其名稱ヲ記入スヘシ)

藝妓ハ 但酌取

水車ハ 但搗臼何個又ハ挽臼何個若クハ器械何臺

乘馬ハ 但何頭

漁業ハ 但雜網漁要人員何人（余ハ之ニ準シ漁名人員ヲ記入スヘシ）

内何人免稅

採藻ハ 但要人員何人

内何人免稅

自轉車ハ 但何輛

●縣令甲第五十七號 明治二十二年四月一日

明治二十二年度郡部貸座敷及ヒ娼妓賦金徵收規則別冊ノ通相定ム

郡部貸座敷及娼妓賦金徵收規則

第一條 貸座敷及娼妓營業ヲ分テ各上中下ノ三等トス

第二條 貸座敷及娼妓營業者ノ等級ハ左ノ程度ニ依リ之レヲ定ム

貸座敷

上等 客間坪數十八坪以上

中等 全上九坪以上

下等 全上九坪未滿

娼妓

上等 十二時間揚代金壹圓五拾錢以上

中等 全上六拾錢以上

下等 全上六拾錢未滿

第三條 貸座敷及娼妓營業者賦金ヲ定ムル左ノ如シ

貸座敷

一 御調郡尾道町字久保ニ於テ營業スルモノ

上等 一ヶ月金三圓

中等 全上貳圓

下等 全上壹圓五拾錢

二 前列記外ノ免許地ニ於テ營業スル者

上等 一ヶ月金貳圓五拾錢

中等 全上壹圓七拾錢

下等 全上壹圓貳拾錢

娼妓

上等 一ヶ月金貳圓

中等 全上壹圓五拾錢

下等 全上七拾錢

第四條 賦金ハ毎月一日ヨリ十六日マテニ郡役所々在地ニアツテハ郡役所へ
其他ハ所屬町村役所へ上納スヘシ但十六日后ノ開業又ハ等級改正ニ依リ増
加スル賦金ハ届出ノ節上納スヘシ

第五條 開廢業又ハ等級改正ニ係ル賦金ハ左ノ方法ニ依リ徴収シ過納ニ屬ス
ルモノハ其都度返付スヘシ

開業十五日前ハ全額十六日后ハ半額
廢業十五日前ハ半額十六日后ハ全額

改等十五日前ハ新等級ノ全額十六日后ハ新舊等級ノ各全額
第六條 流行病其他ノ事故ニ依リ營業ヲ停止シタル并若クハ驅黷院入院中ハ
日割ヲ以テ其賦金ヲ免除ス

第七條 前條ノ場合ニ遭遇シタル營業者ハ其事故及日數ヲ詳記シ取締人ノ連
署ヲ得テ郡役所へ届出ヘシ

第八條 従前許可ヲ得タル貸座敷ハ本年四月一日現在ノ客間坪數娼妓ハ十二

時間ノ揚代金ヲ記シ同月五日限り以后開業ノ許可ヲ得タルモノハ三日以内
改等若クハ廢業其他轉住改氏名等ハ其都度取締人ノ連署ヲ得テ郡役所ニ届
出ヘシ

第九條 賦金上納后縣下甲郡役所々轄内ヨリ乙郡役所々轄内へ轉任シ營業ヲ
爲スモノハ領収寫ヲ添付スヘシ

第十條 納期内ニ上納セサルモノハ其營業ヲ停止シ鑑札アルモノハ引上ルモ
ノトス

第十一條 前條ニ依リ營業ヲ停止セラレタルモノ再ヒ前同様ノ營業ヲ爲ス片
ハ其不納額ヲモ併セテ之ヲ徴収ス

●縣令甲第五十八號 明治二十二年四月一日

明治二十二年度市部貸座敷及ヒ娼妓賦金徴収規則別冊ノ通相定ム

市部貸座敷及娼妓賦金徴収規則

第一條 貸座敷及娼妓營業ヲ分テ各上中下ノ三等トス

第二條 貸座敷及娼妓營業者ノ等級ハ左ノ程度ニ依リ之ヲ定ム
貸座敷

上等 客間坪數十八坪以上
 中等 全上九坪以上
 下等 全上九坪未滿
 娼妓
 上等 十二時間揚代金一圓五拾錢以上
 中等 全上六拾錢以上
 下等 全上六拾錢未滿
 第三條 貸座敷及娼妓營業者賦金ヲ定ムル左ノ如シ
 貸座敷
 上等 一ヶ月金三圓
 中等 全上貳圓
 下等 全上壹圓五拾錢
 娼妓
 上等 一ヶ月金貳圓
 中等 全上壹圓五拾錢

下等 全上七拾錢
 第四條 賦金ハ毎月一日ヨリ十六日迄ニ市役所ニ上納スヘシ但十六日開業又ハ等級改正ニ依リ増加スル賦金ハ届ケ出テノ節上納スヘシ
 第五條 開廢業又ハ等級改正ニ係ル賦金ハ左ノ方法ニ依リ徴収シ過納ニ属スルモノハ其都度返付ス
 開業十五日前ハ全額十六日后ハ半額
 廢業十五日前ハ半額十六日后ハ全額
 改等十五日前ハ新等級ノ全額十六日后ハ新舊等級ノ各半額
 第六條 流行病其他ノ事故ニ依リ營業ヲ停止シタルモ若クハ驅黴院入院中ハ日割ヲ以テ其賦金ヲ免除ス
 第七條 前條ノ場合ニ遭遇シタル營業者ハ其事故及日數ヲ詳記シ取締人ノ連署ヲ得テ市役所ニ届出ヘシ
 第八條 從前許可ヲ得タル貸座敷ハ本年四月一日現在ノ客間坪數娼妓ハ十二時間ノ揚代金ヲ記シ同月五日限り以后開業ノ許可ヲ得タルモノハ三日以内改等若クハ廢業其他轉住氏名等ハ其都度取締人ノ連署ヲ得テ郡役所ニ届出

スヘシ

第九條 納期ニ賦金ヲ上納セサルモノハ其營業ヲ停止シ鑑札アルモノハ引揚
グルモノトス

第十條 前條ニ依リ營業ヲ停止セラレタルモノ再ヒ前同様ノ營業ヲナス片ハ
其不納額ヲモ併セテ之ヲ徴収ス

●訓令乙第三百六拾二號

明治二十二年四月十日

郡部備荒儲蓄法施行規則取扱順序

第一條 食料小屋掛料農具料種穀料ノ給與及地租ノ補助或ハ貸與ヲ出願スル
モノアレハ町村長ハ實地ヲ検査シ景況及意見ヲ詳具シ願書ト共ニ之ヲ三日
以內ニ郡長ヘ差出スヘシ

但規則第九條ノ給與願ニハ該條ニ示ス米相場第十二條種穀料ノ給與願ニ
ハ其種穀毎ニ該町村前月中平均相場ヲ副伸スヘシ

第二條 郡長ニ於テハ前條ニ示ス願書ヲ受ケタル片ハ願書並ニ景況書ヲ審査
シ或ハ主任書記ヲシテ實地ヲ視察セシムル等相當ノ調査ヲ爲シ其郡長ニ於
テ處分スヘキモノハ規則ニ照シテ給與シ其知事ノ處分ニ屬スルモノハ願書

及景況書モ進達スヘシ

但願書又ハ景況書ノ實地ニ齟齬スルカ其他意見アルトキハ之ヲ副伸スヘ
シ

第三條 町村長ニ於テ臨時焚出米ヲ給スル場合ト認ムルカ又ハ臨時小屋掛料
營ミ一時ノ急ヲ救フヘキ場合ト認ムル片ハ之ヲ郡長ニ具上スヘシ郡長ハ規
則ニ照シテ適宜ノ處分ヲ爲シ同時ニ之ヲ知事ヘ報告スヘシ

第四條 郡長ニ於テ處分スヘキモノ、内連戸又ハ連地同時ノ罹災ニシテ五十
戸以上小屋掛料食料或ハ種穀料ノ給與ヲ要スル場合ニ在テハ郡長ハ實況ヲ
詳具シ知事ノ認可ヲ得テ處分スヘシ

但第三條ノ場合ハ此限ニアラス

第五條 町村長ハ地租貸與ヲ受ケタルモノアル片ハ一人限地目地番反別地價
並貸與金額及返納年限等ヲ記セル臺帳ヲ備置キ地主變換ノ時之ヲ更正スヘ
シ

第六條 郡長ニ於テ處分シタル給與金及焚出米等ニ係ル費用ハ郡役所ノ經費
ヲ以テ一時操替置キ該處分ノ報告ト併セテ操替金ノ償還ヲ請フヘシ

第七條 米倉ハ郡長之ヲ保管スヘシ

●訓令甲第六拾貳號

明治二十二年四月六日

貸座敷及娼妓賦金ノ儀ハ地方税ノ例ニ準シ取扱フヘシ

右訓令ス

●縣令甲第七十号

明治二十二年四月九日

明治二十二年度郡部備荒貯蓄法施行規則ニ據リ食料小屋掛料農具料種穀料給與及地租補助貸與出願手續別冊ノ通り相定ム

郡部備荒貯蓄法施行規則ニ依リ食料小屋掛料農具料種穀料給與及地租補助貸與出願等手續

- 第一條 食料小屋掛料種穀料ノ給與ヲ得ント欲スルモノハ左ノ各項ヲ記載シ隣保二名以上保証連署ノ上風蝗旱霜ノ災ニ罹リタル食料種穀料ハ知事ヘ其小屋掛料及其他ノ災ニ罹リタル食料小屋掛料種穀料ノ給與ハ郡長ニ願出ヘシ但作物ノ災ニ罹リタルモノハ甲號書式ニ依リ損害明細書ヲ添ユヘシ
- 一 食料ハ日數及給與ヲ受クヘキ人員其年齡男女ノ別並臨時焚出米ヲ受ケタルモノハ其日數

二 小屋掛料ハ人員(同居者トモ)並臨時其場ノ救助ヲ受ケタルモノハ其譯

三種穀料ハ品目數量及其種穀ヲ要スル田畑ノ反別

四 親戚隣保ヨリ救助ヲ受ケタルトキハ其金員若シクハ品目數量等

五 被害ノ實況及生存若クハ購求シ能ハサル事情

六 土地ヲ所有セルモノハ其反別地價及書入質入ノ有無並借入金數高

第二條 農具料ノ給與ヲ得ント欲スルモノハ左ノ各項ヲ記載シ隣保二名以上

保証連署ノ上郡長ヲ經知事ヘ願出ヘシ

一 品目金員及亡失セル品目並所有ト小作ヲ區別シタル田畑宅地山野地ノ

反別地價

二 親戚隣保等ヨリ救助ヲ受ケタルトキハ其金員若シクハ品目數量

三 被害實況及購求シ能ハサル事情

四 土地ヲ所有セルモノハ書入質入ノ有無其借入金數高

第三條 地租ノ補助或ハ貸與ヲ得ント欲スル者ハ左ノ各項ヲ記載シ隣保二名

以上保証連署ノ上作物採収前災ニ罹リタルモノハ乙號作物採収后災ニ罹リ

タルモノハ丙號書式ニ依リ損害明細書ヲ添ヘ郡長ヲ經テ知事ヘ願出ヘシ

二 作物採收前災ニ罹リタルモノ皆無ハ其罹災后納ムヘキ地租ノ金額其他
 ハ該地方當時ノ相場ニ據リ收獲品代價ヲ算出シ罹災后納ムヘキ地租額
 ニ滿タサル其不足金額
 二 作物採收后災ニ罹リタルモノ其品目數量及該地方當時ノ相場ニ依リ
 算出シタル代價並罹災后納ムヘキ地租額
 三 被害ノ實況及納税シ能ハサル事情
 第四條 作物採收前災ニ罹リ地租補助又ハ貸與ヲ請フモノ一町村内數名アル
 片ハ其一町村内ニ於テ數ヶ所ヲ檢査シ其收獲歩合ヲ以テ各自ノ收獲ヲ查定
 スルモノトス
 第五條 地租ノ貸與ヲ受ケタルトキハ丁号書式ニ依リ借受證書ヲ差出スヘシ
 第六條 施行規則第十九條第二十條ニ據リ返納金ヲ棄損スヘキモノハ事田ヲ
 詳記シタル届書ヲ作り返納期限前郡長ヲ經テ差シ出スヘシ
 但所有地悉皆荒地トナリタル片ハ借受證書ノ返付ヲ請フベシ
 第七條 施行規則第廿一條ノ場合ニ在テハ地券書換ノ日ヨリ十日以内前所有
 者ハ其事由ヲ詳記シタル届書后所有者ハ更ニ成号書式ニ依リ借受證書ヲ作

リ同時ニ郡長ヲ經テ差出スヘシ
 但所有地悉皆本條ノ場合ニ在テハ前所有者ハ借受證書ノ返付ヲ請フベシ
 用紙半紙全紙 田方ノ例（畑方モ此例ニ倣フ）

損害明細書

何郡何(町村)何某(ハ朱書)

郡名	町名	村名	地番	地目	反別	改正	収獲	本年	収獲	收獲品	代金	地租	欠額
何郡	何町	何村	何番	田何	反步	何石	何斗	米何	石何	何圓	何拾	錢	何圓
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
合	計												
右	ハ	本	年	何	害	ノ	爲	メ	食	料	種	穀	料
調	候	處	前	書	ノ	通	相	違	無	御	座	候	也

右ハ本年何害ノ爲メ食料種穀料(食料)種穀料)ノ給與相願候付作物損害明細取
 調候處前書ノ通相違無御座候也

年月日 何郡何町何番屋敷士族農
 何某印

知事宛 凡例

何郡何町村長 何 某 印

- 一 本縣郡内ニアル作地ハ被害ト否トヲ問ハス悉皆一筆限り掲出スヘシ
- 一 本縣市内并他府縣内ニアル所有地ハ被害ト否トヲ問ハス本表ニ倣ヒ合計ノ次へ悉皆一筆限り掲出スヘシ
- 一 無難地ノ本年収獲ハ改正収獲ヲ掲出スヘシ
- 一 収獲品ノ代金ハ該地方當時ノ相場ニ依リ算出記入スヘシ
- 一 欠額ハ収獲品代金地租ニ滿タサル不足金収獲ハ改正地租ニ超過セル収獲品代金ヲ掲出スヘシ
- 一 合計ノ欠額ハ一筆限り欠額集計ノ内収獲ヲ扣除シタル殘額ヲ掲出スヘシ其収獲多キキモ此例ニ依リ其收額ヲ朱字ニテ記入スヘシ
- 一 畑方ト雖モ主作收獲ノ季節田方ト概子同シキモノハ本表ノ式ニ倣ヒ掲出スヘシ畑方ノ場合ニ在テ田方モ亦此例ニ同シ

一 小作地ハ地目反別ノ欄内へ(小作)ト肩書スヘシ
 用紙半紙全紙
 (畑方モ此例ニ倣フ)

乙号

損害明細書

何郡何町村何 某 (〇ハ朱書)

郡町村名	地番	地目反別	地租	收獲品目數	收獲品代金	欠額
何郡何町何番	何番	田何反歩	何圓何拾錢	米何石何斗	何圓何拾錢	何圓何拾錢
〇	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ
	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ	ヽ

右ハ本年何害ノ爲ノ地租補(貸與)相願候ニ付キ私持地ノ作物損害明細取調候處前書ノ通相違無御座候也

明治何年何月何日

何郡何町村何番屋敷 士族 平良農
 何 某 印

何郡何町村長 何 某 印

知事宛 凡例

- 一本縣郡内ニアル所有ノ田地ハ被害ト否トヲ問ハス悉皆一筆限リ掲出スヘシ
- 一無難地ノ収獲ハ改正収獲ヲ掲出スヘシ
- 一収獲品ノ代金ハ該地方當時ノ相場ニ依リ算出記入スヘシ
- 一収獲ハ収獲品代金地租ニ滿タサル不足金収獲ハ地租額ニ超過セル收獲品代金ヲ掲出スベシ合計ノ餘額ハ一筆限リ欠額集計ノ内収獲ヲ扣除シタル殘額ヲ掲出スベシ
- 一畑方ト雖モ主作収獲ノ季節畑方ト概子同キモノハ本表ノ式ニ倣ヒ掲出スベシ畑方ノ場合ニ在テ畑方モ亦此例ニ同シ
- 用紙半紙全紙 畑方ノ例 (畑方モ此例ニ倣フ)
- 丙号

損害明細書

郡町名	地番	地目	反別	地租	何郡何町何村何	某
					収獲品目數	亡失収獲品目數
					量	目代金

何郡何村字	何番	田何反歩	何圓何拾錢	何郡何町何番屋敷士族平民	何 某 印
〃	〃	〃	〃	同 上	同 上
〃	〃	〃	〃	保証人 何 某 印	同 上
〃	〃	〃	〃	同 上	同 上
〃	〃	〃	〃	何郡何町村長 何 某 印	何 某 印
合計	〇	〃	〃	米何石何斗	米何石何斗
				何圓何拾錢	何圓何拾錢

右ハ何年何月何日何害ノ爲メ地租貸與相願候ニ付キ私持地ノ收獲品損害明細取調候處前書ノ通相違無御座候也

年号月日

何郡何町何番屋敷士族平民 何 某 印

同 上 保証人 何 某 印

同 上

同 上 何郡何町村長 何 某 印

知事宛

凡例

- 一本表ハ作物採収后其収獲ヲ亡失セシ地所ニ限り式ノ如ク掲出スベシ
- 一収獲亡失外ノ所有地及収獲ハ本表合計ノ次へ地目毎ニ反別収獲ヲ記入スベシ
- 一前項亡失外ノ収獲ニシテ耕地ニ在ル等其量目ヲ確知シ能ハサルモノハ見込ノ量ヲ記入スベシ
- 一亡失収獲品代金ハ該地方當時ノ相場ニ依リ算出記入スベシ
- 丁號印紙 借受証書 (用紙中尺全紙) 一金何程
- 但明治何年ヨリ何年マテ五ヶ年間年賦一ヶ年金何程宛(末年金何程)
- 右ハ何郡何町何番地(別紙一筆限リ書抜ノ地所)明治何年何月何日(明治何年)何々ノ災ニ罹リ地租ヲ納ムル能ハサルニ依リ明治二十二年度公儲蓄法施行規則ニ照シ前書之通貸與御許可相成正ニ借受仕候上ハ規則ノ通毎年十一月一日ヨリ同三十日限リ返納可仕候依テ借受証書差上申候処如件

年號月日

知事宛

何郡何町何番屋敷士族平民

何某印

戊號印紙

借受書

(用紙中尺全紙)

一金何程

明治何年分迄上納濟

殘金上段ノ通

但明治何年ヨリ何年迄五ヶ年間一ヶ年金何程宛(末年金何程)

右ハ何郡何町何番地(別紙一筆限リ書抜ノ地所)明治何年何月何日(何々ノ災ニ罹リ地租ヲ納ムル能ハサルニ依リ明治何年度備荒儲蓄法施行規則ニ依リ金何程何某へ御貸與相成候處今般該地私買受候ニ付キ前書年賦込納額引受御規則ノ通當年十一月一日ヨリ同三十日限リ返納可仕候依之先ニ持主連署借受証書差上申候処如件

何郡何町何番屋敷士族平民

買受人 何某印

同 讓渡人 何某印

明治何年何月何日

知事宛

●訓令乙第四百六拾九號

明治二十二年四月二十六日

町村費ニ對シ金穀物件ヲ寄附シタルモノ其寄附者指定ノ事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テ其金穀物件ハ自今左ノ各項ニ依リ処分スヘシ

右訓令ス

- 第一 一旦使用ノ后寄附者指定ノ事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依リ其事業又ハ費途最モ近似ノ事業ニ充用シ若クハ寄附者ニ還付スルコトヲ得同上ノ金穀物件ニシテ未タ使用スルニ至ラスシテ寄附者指定ノ事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テハ之ヲ寄附者ニ還付スヘシ
- 第二 元金又ハ原物ヲ委託シ其取得ヲ寄附シタルモノ若クハ元金又ハ原物ヲ据置キトシ其取得ヲ使用スルノ方法ヲ以テ元金原物ヲ寄附シタルモノ其事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テ其元金又ハ原物ハ之ヲ寄附者ニ還付シ其現存ノ取得又ハ之ヲ以テ支辨シタル物件ハ前項ニ依リ処分ス
- 第三 寄附ノ金穀物件ニシテ其処分方ニ付特別ノ約束セルモノハ各々其約束ニ依ル

●訓令乙第四百七拾號

明治二十二年四月二十六日

市費ニ對シ金穀物件ヲ寄附シタルモノ其寄附者指定ノ事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テ其金穀物件ハ自今左ノ各項ニ依リ処分スヘシ

- 第一 一旦使用ノ后寄附者指定ノ事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テハ市會ノ議決ニ依リ其事業又ハ費途ニ尤モ近似ノ事業ニ充用シ若クハ寄附者ニ還付スルコトヲ得
- 同上ノ金穀物件ニシテ未タ使用スルニ至ラスシテ寄附者指定ノ事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テハ之ヲ寄附者ニ還付スヘシ
- 第二 元金又ハ原物ヲ委託シ其取得ヲ寄附シタルモノ若クハ元金又ハ原物ヲ据置トナシ其取得ヲ使用スルノ方法ヲ以テ元金又ハ原物ヲ寄附シタルモノ其事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テハ其元金又ハ原物ハ之ヲ寄附者ニ還付シ其現在ノ取得又ハ之ヲ以テ支弁シタル物件ハ前項ニ依リ処分ス
- 第三 寄附ノ金穀物件ニシテ其処分方ニ付キ特別ノ約束ヲ付セルモノハ各々其約束ニ依ル

●訓令甲第七十三號

明治二十二年五月四日

府縣會規則第十四條選舉人ノ年齡ヲ算スルハ本年法律第六號名簿調製ノ期日納稅額ヲ算スルハ原簿調製ノ期日ヲ以テ限界ト爲スヘシ但其納租ノ計算ハ從前ノ通年限ニ依ラサル義ト心得ヘシ

右ノ各ス

●訓令甲第七十八號

明治二十二年五月三日

地方稅ヲ以テ支辨スベキ物品取扱規定左ノ通相定メ本年六月一日ヨリ施行ス

但明治十八年一月丙第六號本縣達諸物品出納順序ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

右訓令各ス

物品取扱規程

- 第一條 地方稅經濟ニ屬スル物品ノ取扱ハ總テ此規程ニ依ルヘシ
- 第二條 物品ノ出納ハ主任者ヲ定メ專掌セシムベシ
- 第三條 物品ヲ分ツテ備品消耗品ノ二種トシ各課係共用スルモノヲ甲種トシ課係若クハ各自ニ專用スルモノヲ乙種トス
- 甲種物品ハ物品出納主任者之ヲ保管シ乙種物品ハ課係共用スルモノハ當該

課係長(長ナキハ其首 席者以下倣之)之ヲ保管シ各自專用スルモノハ各自之ヲ保管スヘシ

第四條 物品ノ受渡ハ第八條第九條ノ簿冊ニ依取扱フベシ

第五條 通常所要ノ消耗品ハ品目數量ヲ豫定シ毎月之ヲ交付スベシ

但前月遺拂殘品アルハ翌月分定數ニ算入スヘシ

第六條 備品并臨時所要ノ消耗品ハ當該課係長ヨリ其事由書ヲ徵シ審査ノ上所屬長ノ判決ヲ經テ交付スヘシ

第七條 受領ノ備品不用ニ屬シタルハ破損再ヒ使用ニ堪ヘ難キモノ再ヒ使用ニ堪ヘ難キモノ

要スルハ直ニ返附シ其引換ヲ要スルモノハ更ニ交付ノ手續ヲ爲スベシ

修繕ヲ要スルモノハ當該課係ノ請求書ニ依リ修繕シテ還付スヘシ

第八條 物品出納主任者ハ左ノ簿冊ヲ製シ物品ノ現存及出納ヲ明晰ニスベシ

一 備品原簿

備品ヲ購買又ハ新調シタルハ品目ヲ分類シ

其代價及數量并購買新調ノ年月日ヲ記入シ而シ破損再ヒ使用ニ堪ヘ難キモノ若クハ

賣却等ニテ減少アルハ其事由ヲ記入ス

一 消耗品原簿

消耗品ヲ購買シタル片ハ品目ヲ分類シ其代價及數量并購買ノ年月日ヲ記入シ拂渡ハ消耗品交付簿ニ依リ品目數量及其渡先キ渡シ月日等ヲ記入ス
一 備品交付簿 消耗品交付簿

各課係ニ物品ヲ交付スル片ハ品目數量等ヲ記入シ之ニ當該課係長ノ認印ヲ受ケシメタル后交付シ其受領者ニ捺印セシム

第九條 各課係ハ左ノ簿冊ヲ製シ受領シタル物品ノ受渡ヲ明晰ニスベシ
一 備品書留簿 消耗品遺拂簿

物品ノ受渡ハ各品目ヲ分類シ其數量及年月日ヲ記入シ返付品ハ物品出納主任者各自ニ専用スルモノハ各自之ニ捺印スルモノトス

第十條 所屬長ハ毎年二回以上臨時物品檢閲委員ヲ設ケ物品ノ保管出納ニ關スル實況ヲ檢閲セシムヘシ

第十一條 物品檢閲委員ハ右所管ノ簿冊ニ檢印シテ檢閲ヲ証スヘシ若シ不都合ト認ムルモノアル片ハ當該保管者ヨリ頗末書ヲ徴スルヲ得
檢閲ヲ終リタル片ハ檢閲ノ狀況ヲ詳記シテ所屬長ニ申報スヘシ

第十二條 物品保管上不注意ノ爲メ毀損若クハ紛失等アル片ハ當該保管者ヲ

シテ其責ニ任セシムベシ

第十三條 毎年四月前年度ニ於ケル備品ノ増減并消耗品ノ受拂報告表ヲ調製シ本廳ヘ報告スベシ

第十四條 此規程ニ定ムル備品消耗品ノ種別并諸帖簿ノ様式ハ第一部長ノ通示スル所ニヨルベシ

明治二十二年六月四日

●訓令甲第八十七號
地方税及備荒公儲金徴収ニ關スル從前ノ訓令中諸申報書宛各收税長トアルヲ第一部長ト更正ス

右訓令ス

明治二十二年七月六日

●訓令甲第百號
市町村制施行ニ付區町村名變更相成候者有之候處地方税營業鑑札面舊區町村名ハ故ラニ書換ヲ要セス時宜見計ヒ漸次之ヲ訂正スベシ

右訓令ス

明治二十二年八月廿八日

●訓令甲第百十四號
市町村制第九十一條中從前ノ區町村費ニ關スル細則ヲ規定スルハ從前ノ區町村

課目ニシテ國稅府縣稅ノ附加稅ニ屬スベキモノハ其本則ニ準據シ更ニ細則ヲ設
クルヲ要セサルベシト雖モ從前區町村費ノ課目ニシテ市町村制施行后ニ於テモ
費用スヘキ反別割等ノ類ハ單獨ナル特別稅ナルヲ以テ之ガ賦課方法ノ如キハ細
則トシテ規定シ且罰則ヲ設クルヲ得ル義ト心得ベシ

右訓令ス

●訓令甲第百十九號

明治二十二年九月二十六日

河川上使用料金ハ本年度ヨリ其修繕費地方稅負擔ニ係ルモノハ全稅雜收入ニ組
入市町村費負擔ニ係ルモノハ該費支出ノ市町村ヘ下附ス

右訓令ス

●縣令甲第百貳拾五號

明治二十二年十一月廿五日

縣會議員退職死亡又ハ資格ヲ失シ若クハ住所ヲ轉シタル時ハ本人若クハ親族ヨ
リ届出ヘシ

●訓令甲第百三拾貳號

明治二十二年十一月二十日

地方稅營業鑑札受拂臺帖及計算表別紙之通相定候條計算表木製鑑札ハ左之期限
ハ除ク通第一部長ヘ差出スヘシ

右訓令ス

前半期分

十月十日限

后半期分

翌年四月十日限

明治何年度

紙製 (木製)

地方稅營業鑑札受拂臺帳

何郡(市)役所

用紙美濃紙

合計ハ前後半期毎ニ記載スヘシ

木製鑑札モ此式ニ依リ別冊ニ調製而シテ新調受ト削換受トハ各別ニ記帳シ其事
故摘要欄内ニ記載スベシ

前(后)半期

月	日	摘要	受	新規	再	渡	書	換	書	損	計	殘	高
四月一日	前期ヨリ	越	高	五〇									五〇

二百十七

全	上	四月四日	四月五日	合計													
三〇	二	五	一,〇〇〇	一,〇五〇													
二	五	一		三五													
一三五	一三五			二													
六	六			六													
一三六	一三六			一													
六	六			四四													
一三六	一三六		一,〇〇六	一,〇〇六													

二百十六

月
日
摘
要
受
新
規
再
渡
書
換
書
損
計
殘
高

拂

用紙美濃紙

明治何年度前(後)半期地方稅營業鑑札受拂計算表

受	拂	差
越	新	殘
高	規	引
受	再	
高	渡	
計	書	
	換	
	書	
	損	
	計	

右之通候也

年月日

第壹部長宛

郡(市)長

●縣令甲第三百拾八號

明治廿二年十二月廿八日

明治廿三年度縣會ト市郡部會トニ於テ議定スヘキ事件ノ區別及聯帶經費市郡負擔割合縣會ノ決議ヲ經テ左ノ通相定ム

明治二十三年度縣會ト市郡部會トニ於テ議定スヘキ事件ノ區別及聯帶經費市郡負擔割合

第一條 市郡聯帶シタル事件ハ縣會ニ於テ之ヲ議定スヘシ

第二條 市郡聯帶セサル事件ハ市郡部會郡部會ニ於テ各之ヲ議定ス

第三條 市郡聯帶シタル經費ハ左ノ割合ヲ以テ市郡部郡部ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

警察本部并巡查教習所諸費

警察本部并巡查教習所建築修繕費

土木測量器械費

衛生費

檢疫本部并船舶検査所諸費

尋常師範學校費

諸達書費

勸業費

縣廳舍建築修繕費

縣監獄費

縣監獄建築修繕費

右經費ハ明治二十二年一月一日現在戸數ニ割合金高ノ八厘二九四八市部ニ於テ負擔シ九分一厘七〇六八郡部ニ於テ負擔スルモノトス

廣島水上警察署及分署諸費

廣島水上警察署及分署建築修繕費

右經費ハ金高ノ三分ハ市部ニ於テ負擔シ七分ハ郡部ニ於テ負擔スルモノトス

市部ニ接續スル橋梁費

右經費ハ市郡部折半シテ負擔スルモノトス

縣會議諸費

議員常置委員旅費ヲ除ク

右經費ハ金高ノ半額ハ市郡議員ノ定數ニ半額ハ市郡聯帶經費ノ負擔高

縣會議諸費地方稅取扱費豫備費ヲ除ニ割合負擔スルモノトス

廣島病院費

右經費ハ金高ノ六分五厘ハ市部ニ於テ負擔シ三分五厘ハ郡部ニ於テ負擔スルモノトス

廣島縣獄院費

檢獄費

廣島市安藝郡佐伯郡ニ屬スルモノ

右經費ハ金高ノ九步九厘ハ市部ニ於テ負擔シ一厘ハ郡部ニ於テ負擔スルモノトス

地方稅取扱費

豫備費

右經費ハ市郡聯帶經費ノ負擔高

地方稅取扱費豫備費ヲ除ク

衆議院議員選舉費

右經費ハ金高ノ四分四厘ハ市部ニ於テ負擔シ五分六厘ハ郡部ニ於テ負擔スルモノトス

第四條 市郡聯帶經費ニ屬スル雜收入ハ其經費負擔ノ割合ニヨリ之ヲ收入ス

ハシ

第五條 市郡經濟分離前ニ屬スル地方稅年度后追徵金ハ本年度市郡聯帶通常

經費豫算負擔高ニ割合收入スヘシ

●縣令甲第三百三拾四號

明治廿二年十二月廿八日

明治二十三年度郡部議員旅費及常置委員月手當并旅費額郡部會ノ決議ヲ經テ左

之通相定ム

明治二十三年度郡部議員旅費及常置委員月手當并旅費額

一郡部議員旅費 議員解任及常置委員赴任解任トモ

一 一哩ニ付金六錢

一 海里ニ付金六錢

一 一哩ニ付金拾錢

一 海里ニ付金拾錢

日當 但片道一里未滿ノ議員ハ會期中出席日數ニ應シ辦常料一日金一圓二拾

錢ヲ給ス

一郡部常置委員月手當金三拾圓

一郡部常置委員旅費

一 一哩ニ付金六錢

一 海里ニ付金六錢

一 一哩ニ付金拾錢

一 海里ニ付金拾錢

日當 管內金壹圓

一日當ハ陸路六里未滿瀛車十哩未滿及瀛船十海里未滿ノ旅行ニハ支給セス但宿泊ヲ要スルハ其泊數ニ應シ日當ヲ給ス、

一月手當ハ就職解職トモ其月日割ヲ以テ支給ス

一月手當ハ全ク參會セサル月ハ之ヲ支給セス但職務ノタメ出張其他罹病忌引ノ

者ハ此限ニアラス

●縣令甲第三百三十七号

明治廿三年度市部議員旅費及常置委員手當并旅費額市部會ノ決議ヲ經テ左ノ通相定ム

明治二十三年度市部議員旅費及常置委員月手當旅費額

一市部議員旅費

一 瀛車賃 一哩ニ付金六錢

一 瀛船賃 一海里ニ付金六錢

一 車馬賃 一里ニ付管內金拾錢

一 日當 管外金拾四錢

但片道一里未滿ノ議員ハ會期中出席日數ニ應シ弁當料一日金貳圓貳拾

錢ヲ給ス

一市部常置委員月手當金三拾圓

一市部常置委員旅費

汽車賃

一哩ニ付金六錢

汽船賃

一海里ニ付金六錢

車馬賃

一里ニ付管内金拾錢
管外金拾四錢

日當

管内金五拾錢
管外金壹圓

一日當ハ陸路六里未滿汽車十哩未滿及汽船十海里未滿ノ旅行ニハ支給セス但宿泊ヲ要スルルハ其泊敷ニ應シ日當ヲ給ス

一月手當ハ就職解職トモ其月日割ヲ以テ支給ス

一月手當ハ全ク參會セサルルハ之ヲ支給セス但職務ノ爲メ出張其他罹病忌引ノ者ハ此限ニアラス

●縣令甲第三百二十九號

明治二十二年十二月廿八日

明治廿二年度地方稅收入金市郡分別法縣會ノ決議ヲ經テ左ノ通相定ム

明治二十二年地方稅收入金市郡分別法

一縣監獄建築費ニ對シ國庫補助金

右收入金ハ明治廿一年一月一日現在市郡部ノ戶數ニ割合分別スルモノトス

一舊縣立醫學校財產賣却代金

一娼妓貸座敷賦金濟ニ屬セシ物件引繼ノ内不用物件賣却代金

一市郡經濟分離前ニ屬スル地方稅不納ノ爲メ沒收シタル財產賣却代金

右收入金ハ明治二十二年度市郡聯帶通常豫算負擔高ニ割合分別スルモノトス

●縣令甲第四百十號

明治廿二年十二月廿八日

明治廿二年一月廣島縣令甲第三號明治廿二年度縣會市部會議定事件分別例修正縣會ノ決議ヲ經テ左ノ通相定ム

明治廿二年度縣會市部會郡部會議定事件分別例修正

第一條 市郡聯帶シタル事件ハ縣會ニ於テ之ヲ議定スヘシ

第二條 市郡聯帶セサル事件ハ市部會郡部會ニ於テ各ヲ議定ス

第二類 庶務

第一 賑 濟

第二類
庶 務

●布第三百六十七號

明治六年九月廿七日

長女へ嫁養子致シ長女死亡其跡へ次女カ三女ヲ後妻ニ縁組致度者ハ一旦他家ノ養女ト爲シ改メテ妻縁相結候義ハ不苦候事

●縣第二百一十一號

明治七年十二月廿四日

別紙之通不洩機布達可致事

○別 紙

家督相續ハ総領ノ男子タル儀勿論ノ事ニ候得共父隠居又ハ死去ノ節長男廢疾ノ旨申立二三男ヲ嗣子或ハ養子等相願候者モ候處病氣固着不具等廢篤疾ノ者ハ家督相讓リ候際ニ無之凡其譯詳細記載醫案書相添二三男嗣子ニ致度等ノ儀長官宛願書正副戸長へ差出區長傳進達候機可致候事

●縣第七十九號

明治九年五月廿日

諸神社分社或ハ遙拜所ノ差異不明瞭ノ向モ候處神殿ヲ建築シ本社ノ分靈ヲ鎮祀

候ヲ分社トシ拜所ノミヲ設ケ遙拜式執行候分ヲ遙拜所ト相心得自今願出候節右
區別判然記載永續方法并建物模樣地面坪數等ニ至ル迄詳細繪圖面相添且分社建
築ノ節ハ本社承諾書可差出此旨布達候事

但遙拜所ヲ取設候内本社祭神ヲ分祀シ其實全分社ニ異ナラサル分ハ此際
更ニ繪圖面相副來ル六月三十日限り可申出候事

●縣甲第百六拾三號

明治十年十一月廿九日

婦女子家名續續之儀ハ一時不得止事情ヨリ出ル儀ニ付相續ノ後子夫ヲ迎ヘ又ハ
養子致シ候ハ、直ニ其夫又ハ養子ヘ相續ヲ可相讓成規ニ候處往々等閑ニ打過候
者有之甚以不都合ノ事ニ候條自今心得違ノ議無之速ニ成規之通相續可相讓此旨
布達候事

●縣甲第貳拾六號

明治十年三月十七日

各寺院修繕其他寺用ノ爲ノ一時不得止借財候者有之節地所除稅地ナ除稅地ナ建物及寄付
物寺附什器等抵當ニ書入候向ハ法類禮家協議ノ上檀家二名以上連署本寺法類等
ノ承認ヲ受本寺ニ於テ右様ノ儀有之節ハ渾テ此手續ニ隨ヒ同宗内ニテ重立候者
二名以上ノ承認ヲ受クヘシ決テ僧徒一己ノ私借ト毘俗無之様舊教部省ヨリ達有

之候條此旨寺院ヘ布達候事

●縣甲第百七十二號

明治十年十二月十一日

諸願伺ノ内再應申出ノ節最前ノ年月日主要等詳ニ記載可差出旨去ル明治七年縣
第九拾四號ヲ以テ布達候處往々遵守セサル者有之調査上差支不勘ニ付今後ハ官
省使及ヒ本縣布告布達々并指令ニ就テノ伺或ハ追願等ハ前日ノ布告布達々番號
年月日指令及ヒ先願書ノ年月日等必ス記載可差出此旨更ニ布達候事

●縣甲第百九拾貳號

明治十年十二月廿八日

建白上書ノ儀ハ各自意見ヲ上陳スルモノニシテ素ヨリ請願書ノ類ニ非サレハ其
採否不及指令候條此旨布達候事

●縣甲第五拾三號

明治十一年四月六日

本年外務省第一号布達海外旅券規則第七條旅券ハ歸縣後三十日以内ニ其最初受
取タル官廳ヘ之ヲ返納スヘシト有之候處朝鮮國ヘ商用又ハ要用等ノ爲メ數次往
返スル者ニ限り一旅券ヲ以テ三ヶ年間往復不苦候條該券下渡シノ儀出願候節其
段記載可申出此旨布達候事

●縣丙第八十七號

明治十一年四月八日

士族平民共實子アル者養子ヲ以相繼入トシ子女アルノ寡婦夫ヲ迎テ夫ノ跡相繼人ト定ムル等ハ一般難差許定規ニ候得共現實極貧或ハ老病等ニテ實子孫アリト雖モ幼少ナルカ又ハ有子ノ寡婦タリモ極貧或ハ其子女幼少且後見スヘキ者モ無之歟ノ場合ニテ親族協議ヲ以願出候分ハ可及詮議候條右等ノ義出願候者モ候得ハ事實詳細取調具申候様可致此旨爲心得相違候事

●縣甲第九十號

明治十一年六月廿八日

會テ奏任以上ノ官ニ被任現時非役ノ者死去候節ハ該人履歷書相添其都度可届出此旨布達候事

●縣丙第百五十號

明治十一年七月十三日

男女私通シテ妊娠シ結婚夫妻トナル后分娩スル兒子ハ私生ヲ以取扱父ノ籍へ編入候トモ庶子ト稱シ來候處右ハ結婚後分娩スル者ハ嫡子ニ引直候様區内へ及示達更ニ事實爲届出尙調査ノ上相違無之候へハ戶籍帳書載方相改候様可取計此旨相違候事

但兒子妻里方ノ籍ニアル者ハ双方ヨリ受渡ノ義爲届出并甲乙兩區ニ跨ル者届出差出候へハ除籍方ノ區長ヨリ入籍方ノ區長へ照會ノ上夫々戶籍帳

加除可取計尤他府縣へ係ル分ハ書面相添可伺出候事

●縣丙第百六十二號

明治十一年八月九日

養女へ家名相繼ノ義ハ是迄不及採用候處詮議ノ次第有之戶主亡沒或ハ退隱候場合實男女子并相當ノ養子モ無之依テ追テ相應ノ養子致候迄養女へ家名相繼ノ義沒後ノ養女ハ其家ニテ生レシ男女子他家へ縁付候テ舉ケタル女子并生前養置候女子ヲ以家名相繼方親類協議ノ上願出候者ハ事實取糺相違無之候ハハ願書進達可致此旨相違候事

●縣丙第百七十六號

明治十一年九月十一日

一家難保者退轉親類或ハ舊好等ノ者エ附籍トナリタル主人死去候節跡家名相繼ヲ有スル家族有之時ハ相繼ノ義戶長宛可届出ハ勿論ノ義ニ候處附籍タルニ據リ萬一氣取違届出不致候テハ處分方差支筋有之候條等閑ノ義無之様區内へ可及諭達此旨相違候事

但家名相繼ヲ有スル家族無之候ハハ其段可届出候事

●縣丙第百十八號

明治十一年十一月七日

他府縣ヨリ寄留ノ者生死或ハ改印其他寄留地移轉等總テ戶籍變換ノ義届出レハ

原籍府縣へ通知可致此旨相達候事

●縣甲第三十九号

明治十二年三月四日

士族家督相續養子貫籍替ノ義是迄出願シ來候處自今出願ニ不及直ニ戸長へ可届出此旨布達候事

但廢嫡ニ属スル類ハ從前ノ通りタルヘシ

●縣丙第五十九号

明治十二年三月四日

士族貫籍替ノ義ニ付縣甲第三十九号ヲ以布達候付テハ自今戸長ヨリ直ニ送籍取計候義ト可心得此旨戸長へ可相達候事

●縣丙第九十五号

明治十二年四月十一日

郡區長父母看病ノ爲メ一週間以内歸省願ノ義ハ代理書記ニ於テ之ヲ允許シ其旨可届出此旨相達候事

●縣丙第二百九号

明治十二年八月四日

失踪死亡跡遺留財產處分之義ニ付縣官職制郡區長ノ事務第四項掲載有之候處負債償却方等別紙内務省伺大政官指令及本縣伺内務省指令ニ據リ可取扱此旨相達候事

○別紙

遺留財產處分之儀ニ付伺

失踪死亡遺留財產處分之儀ハ府縣官職制郡區長ノ事務第四項ニ明文有之ニ付無論郡區長ニ於テ處分候義ト相心得居候處右處分方客年司法省ヨリ丁第四十号ヲ以大審院各裁判所へ御省ヨリ大政官へ達有之タル由新聞紙上ニテ看認メ候處相違無之候ハ、該職制中第四項處分ノ文字ハ全ク保管迄ノ處分ヲ指示セシレタル義ニ候歟果シテ然ラハ右御省ノ伺指令郡區長へ兼テ相示置度否至急御指揮有之度此段相伺候以上

明治十二年三月十二日

廣島縣令藤井勉三

内務卿伊藤博文殿

指令

書面伺之趣負債ノ償却ヲ裁判處分ニ任スル義ニ有之候其他ハ職制ノ通りニ候尤失踪遺財保管ハ戸長ニテ可致義ト可相心得事

明治十二年七月七日

内務卿伊藤博文

内務省ヨリ太政官へ伺

明治十一年五月十日

失踪并ニ死亡跡遺財處分之義ニ付テハ追々御指令ノ次第モ有之即今當省ニ於テ右御指揮ニ準據シ各府縣へ及指令候得共猶ホ穩當ナラサル處モ有之更ニ左之通改定致度相伺候

一 失踪逃亡者ノ遺財ハ家族ニテ保管シ家族ナキハ親族親族ナキハ區戸長役場ニテ保管セシメ負債アル者ハ其償却処分モ取計ハスル例ニ有之(岡山縣同租稅未納ノ者逃走處分ノ件ハ十年六月十二日御指令等ニ由テ例トス)

候處右ハ負債處分ノ義ハ種々差間ノ難モ有之候ニ付以來ハ保管財産中書入質トナリタル分ハ其約定期限ニ至リ償却ノ處分地方官ニテ問届書入質ニアラサル負債ノ義ハ一切裁判所決テ償却候様致度

一 前條ノ遺財負債ナキカ又ハ負債償却ニテ猶ホ餘財アル分ハ三十六ヶ月ヲ過キテ復得セサル時ハ官沒スル例ニ有之候處(筑摩縣同村民近轉所有地ノ件ハ今年五月二日御指令并ニ磐前縣同舉家死跡處分ノ件ハ九年四月十七日御指令等ニ由テ例トス)右三十六ヶ月ノ期限ハ裁判上失踪者負債處分ノ期限ニテ官沒ノ期限モ之ニ準スルハ穩當ナラス依テ該財産ハ可成丈ケ永久ニ保護スルノ趣旨ヲ以テ自今十年ヲ期滿トシ官沒ノ處分ニ及候様致度

一 死亡跡相續人無之遺財ハ三十六ヶ月ヲ待タス直ニ官沒シ負債アル時ハ償却スル例ニ有之(第二條割註同御指令ニ由テ例トス)候處右負債償却處分區別ノ義第一條ノ通取計ハセ候様致度

右ハ各府縣ヨリ續々伺出候事件モ有之義ニ付至急御裁令被下度候也

(朱書御指令) 明治十一年十一月四日

伺之趣ハ左之通可相心得事

第一項 區戸長ノ保管スル財産中負債償却処分ノ義ハ其書入質公証ノ有無ニ拘ハラス都テ裁判上ノ處分ニ任シ區戸長ハ之ヲ保存スルニ止マルヘシ

第二項 追テ法律制定迄ハ官沒處分ヲ爲サス本人歸來セハ其遺財ヲ返付スヘシ

第三項 負債償却處分ノ義ハ第一項指令ノ通

●縣中第百九十一號 明治十二年八月十九日

神社寺院明細帳最前進達ノ分脱誤不少候ニ付別紙書式ニ照準且境外遙拜所招魂社祖靈社明細帳モ調製差出候様内務省ヨリ達之趣有之候條本年六月三十日ノ現況ヲ以精密取調來ル九月三十日迄ニ正副二通戸長ヲ經テ郡區役所へ可差出此旨

社寺へ布達候事

俱真宗寺院明細帳調製ノ義去ル十年各派管長ヨリ内務省へ願濟之赴ハ候得
共今般取調ニ付各宗寺院同様更ニ取調可差出候事

○別紙

(神社明細帳書式)

何府管下何國何郡何町何村何字何

社格何

某

神

社

一祭神

一由緒

一社殿間敷

一境内坪敷并地種

一境内神社幾社

某神社

祭神

由緒

建物

一境内某遙拜所

由緒

建物

一境内招魂社

由緒

建物

一境内祖靈社

由緒

建物

共有人員

一境外所有地

耕地段別

地價金額

何町何字何

山林段別	何町字何
地價金額	
宅地段別	何町字何
地價金額	
一氏子戶數	
一管轄廳迄ノ距離里程	
以上	
(寺院明細帳書式)	
一本尊	何府管下何國何郡何町字何
一由緒	總本山或ハ本寺又ハ某寺末
一堂宇間數	何宗何派 某 寺
一境內坪數并地種	

一境內佛堂幾宇	某堂
本尊	由緒
由緒	建物
一境內庵室幾宇	某庵
本尊	由緒
由緒	建物
一境外共有地	何町字何
耕地段別	何町字何
地價金額	
山林段別	何町字何
地價金額	

何町字何

宅地段別

地價金額

一 檀徒人員

一 管轄廳迄ノ距離里數

以上

明細帖取調方心得

- 一 用紙ハ大半紙ヲ用ヒ凡一紙十三行ノ積ニテ一社寺毎ニ各紙ニ相認ムヘシ
- 一 但攝末社ノ名義ヲ問ハス神社境外ニ在ル者ハ總テ一社トシ各紙ニ認ムヘシ
- 一 神宮官國幣社并同境内神社社務ノ有無ニ拘ハラズハ取調ニ及ハス
- 一 山野路傍存置ノ神祠并衆庶參拜ヲ許可セシ人民私邸内ノ神祠ハ並ニ一社トシ其神社境内へ移轉セシ者ハ境内神社ノ項下ニ記スヘシ
- 一 遙拜所招魂社祖靈社并寺院ノ別院支坊末庵等ハ公許共有ニ係ル者ノミヲ取調フヘシ
- 一 但官祭招魂社并建物無之遙拜所ハ記載ニ及ハス

- 一 由緒ハ創立公稱融合再興復舊移轉及社格等許可ノ年月并該社寺ニ關スル緣由沿革ヲ詳記スヘシ
- 一 社寺境内地ノ社寺名受ニ非ル者ハ名受人ノ姓名私有共有ノ別ヲ地種ノ下ニ登記スヘシ
- 一 社寺境内ニ社堂外ノ建物敷院アラハ社堂間敷ノ次へ並へ擧クヘシ
- 一 祭神由緒不詳ト雖モ古老ノ口碑等ニ存スル者ハ其旨ヲ記シ境内遙拜所等無之者ハ其項ヲ除クヘシ
- 一 社寺ニ氏子檀徒無之向ハ信徒講中ノ人員ヲ記スヘシ

● 縣丙第二百二十三號

明治十二年九月二日

附籍ハ家名ヲ斷滅セシ義ニ無之ニ付附籍主ハ戸主ノ數ニ可算入筈ニ候處引受者ノ戶籍一紙ニ書載スルヨリ若シモ戸主ノ數ニ算入セサル向有之候テハ不都合ニ候條區々ノ取扱無之様可致旨戸長へ可相達候事

● 縣甲第二百五號

明治十二年九月十三日

本年縣甲第九拾一號ヲ以社寺明細書取調可差出旨離形相添及布達候處右明細書神社ハ神官并氏子或ハ信徒總代寺院ハ住職并檀徒或ハ信徒總代連署可致此旨

社寺へ布達候事

明治十三年一月廿二日

●縣丙第十二號
犯罪之者拘留中自然病死セシキハ其死屍親族へ可引渡ハ勿論ニ候處死囚ノ所籍遠隔ニシテ其事之行ハレサル場合ニ於テハ直ニ區長或ハ戸長へ可引渡義モ可有之ニ付心得之爲此旨相達候事

●縣甲第一号

明治十三年一月五日

人民伺届書ノ受付時限ヲ廢シ官吏登廳時限間一切之ヲ收受候條此旨布達候事

●縣丙第八拾壹號

明治十三年五月十九日

自今究民一家數人ノ恤救願ハ郡區長ニ於テ篤ト實況ヲ調査シ各自ニ米額全量ヲ給與致サストモ不差支モノハ其適度ニ斟酌シテ可成丈ケ減省ノ見込ヲ附シ可申出此段相達候事

●縣丙第四十八号

明治十三年三月廿九日

各町村公有記録繪圖面等保存之義ニ付別紙内務省乙第三号達之通相心得編輯致スヘク自然紛亂散佚或ハ水火ノ災ニ罹リ後日ノ參考ヲ失ヒ候テハ不都合ニ付各町村役場ニ於テ保存ノ方法ヲ設ケ焚蕩流失ノ患ナキ様厚ク注意シ逐次編纂豫テ

其目錄取調置主管者轉免ノ節嚴重引繼可致時宜ニ寄リ官員出張爲致檢査候義モ可有之此旨相達候事

○別紙

第三號

府 縣

各廳記録文書保存ノ義ニ付テハ明治八年四月第六拾八號御達之趣モ有之處各町村公有記録繪圖面等モ右ニ準據シ嚴重ニ取締相立目錄ニ通ヲ作リ一ハ之ヲ各町村ニ留メ一ハ之ヲ郡區役所ニ備ヘ從前散佚ノ舊記檢出並新製ノ分ハ年々之ヲ追加シ主管者轉免等ノ節ハ目錄ニ突合セ引繼致スヘク其餘判然私有物ニシテ後証トモ可相成モノハ各地方ニ於テ相當取計致シ代價ヲ要セス相納候者ハ献納書籍ノ例ヲ以相當賞賜可伺出且又時宜ニヨリ官吏派出爲致候義モ可有之候條其節不都合無之様豫テ其向ヘ可相達候事

明治十三年一月九日

内務卿伊藤博文

●縣甲第七十四號

明治十三年四月二十七日

一家ヲ廢シ他家へ養男女トナリ或ハ一戸主ニシテ他ノ養男女トナルノ類郡區長

宛願出候者モ有之候處右ハ廢縮ニ屬スルヲ以自今事由ヲ詳記シ縣令宛出願可致此旨布達候事

●縣丙第百三拾三號 明治十三年七月十七日

郡區長ヨリ諸裁判所へ往復スル文書ハ一般掛合回答ノ文体ヲ用ヒ可申此旨相達候事

●縣丙第百五拾貳號 明治十三年八月十一日

郡區長權内ノ事件及特任條件ニ付左ノ官衙へ對シ自今郡區長ノ名ヲ以テ往復可致此旨相達候事

上等裁判所 檢事局 電信分局 官立學校

各府縣各課 各警察署 各監獄署

●縣丙第百五拾三號 明治十三年八月十一日

扣訴事件ニ付上等裁判所へ人民召喚其他右ニ關スル事件ハ郡區役所ニ於テ直ニ處分可致此旨相達候事

但本文調査中ニシテ復申未濟之分ハ直ニ上等裁判所へ回答可致候事

●縣丙第百八拾號 明治十三年九月二日

警視局管理ニシテ明治十年之役死傷者恩給并扶助料支給方取扱順序乙第三十四号内務大藏兩省ヨリ達第四條恩給ヲ受タル者爾後文武官之職ニ就ク片ハ拜命解職共月日書載戸長并郡區長ヲ經テ速ニ届出候儀可相達候事

●縣丙第百九十九号 明治十三年九月廿五日

諸願届等總テ戸長ヲ經由差出候書面ハ役場印影簿ニ照合スヘキ筈ニ候得共万一等閑ニ相成候テハ不都合ヲ生シ候條戸長ニ於テ注意候儀可致此旨相達候事

●丙第拾壹號 明治十四年一月廿日

社寺創立再興復舊等社寺増加ニ係ル事件出願之節由緒明細書等相副差出スハ是迄ノ通ニ候得共尙今般第六拾壹號公達之趣モ有之左之條々出願書中ニ必ス明記差出候様神官僧侶へ無洩示達可致此旨相達候事

一社寺創立再興復舊等ヲ要スル理由及建設后施行之目的

但再興復舊ハ當初廢絶合併之年月并ニ次第共

一社殿堂宇諸建物坪數繪圖面并目論見仕様之事

一永續資本之財產 動産不動産等ノ細目員 并願書ハ 爾后該社寺一切之ニ 連署ス 數ヲ詳記スヘシ 關係スヘキモノ等

ヘシ

一境内地字番號坪數及社寺名受若クハ人民共有受之別

●甲第百三拾四號

明治十四年六月十八日

非役有位帶勳者轉居并死亡等ノ節届方ノ儀ニ付十二年三月縣甲第三拾八號ヲ以テ布達候処往々無届ノ者有之不都合不少候條自今有位者及帶勳者ハ在役非役ニ不拘轉居改姓名及他管下へ寄留本管へ歸着ハ當人ヨリ死亡者ハ郡區長ニテ取調當廳ヲ經テ式部寮へ可届出此旨布達候事

●丙第百二拾八號

明治十四年七月十四日

麻嫡繼戸尊屬離縁及ヒ分家復籍等總テ戸籍上ニ關スル諸願往々其貰受或ハ引受人ヨリモ願書差出シ來リ候得共双方協議ノ上出願スヘキハ勿論ノ儀ニ付自今貰請人或ハ引受人ヨリ願書差出ニ不及候條部内へ告示及フヘシ此旨相達候事

●甲第百八拾四號

明治十四年八月六日

社寺神宮國幣總代人ノ義氏子檀家中モノハ信徒相應ノ財産ヲ有シタル者三名以上ヲ相選ミ氏子檀家ノ者連署來ル十月三十一日迄ニ戸長役場へ届出今后該社寺ノ願届等ハ潭テ右總代人連署可差出且社寺收入財産ハ田畑山林ノ所得ハ勿論賽物祈禱葬儀回向

等一切ノ受納物ヲ云フ其共有ニ屬スヘキモノト其神官住職ニ付スルモノトノ豫約ヲ致置該收入財産ノ平素亂ルセサル様其神官住職及總代人ニ於テ精算書ヲ製シ連署致シ置ヘシ此旨布達候事

但總代人死亡其他事故ニ依リ改選ノ節ハ其都度戸長役場へ可届出事

●丙第百六十九號

明治十四年九月廿四日

板權免許料收入表本年七月以降別紙雛形ニ照準每半期分調製一月十日限り可差出此旨相達候事

○別紙

用紙美濃紙

區	何	明治何年 自何月 至何月 板權免許料收入表				何	郡區
		標目	返納手數料	書目	一部冊數		
		免許料及書換					
		返納手數料					
				一部冊數			
					一部定價		
					料金收納部數		

計 金	何 郡			計 金
合計金				

右ハ明治何年 七月ヨリ十二月迄 版権免許料 収納高書面之通候也
 一月ヨリ六月迄

年月日

縣令宛

郡區長姓名印

●丙第二百四号 明治十四年十月廿一日

方今各地ヨリ虫害ノ報告有之節其虫名等記載方粗漏ニシテ虫狀等ヲ識別ナシ難ク夫カタメ屢質疑應答等ニ時日ヲ空費シ遺憾少ナカラス候條自今左記ニ照シ何部類似ノ方言何ト稱スル虫云々等詳細記載報告スヘシ此旨相達候事

虫類區別

- 無翅部 蚤 虱 蟻等之レニ屬ス
- 甲翅部 金龜子 天牛 叩頭蟲及蠅蟬等之レニ屬ス
- 膜翅部 蜂 蟻 蠟花娘子等之レニ屬ス
- 直翅部 蝗 蠓 蠅 蟋蟀 等之レニ屬ス
- 鱗翅部 蝶蛾及ヒ其屬 蛾 尺蠖等之レニ屬ス
- 半翅部 蚜虫 椿象 蟬 塵浮子等之レニ屬ス
- 雙翅部 蠅 虻 蚊 等之レニ屬ス
- 右ノ外 蛇 蛙 壁 蚯蚓 蜈蚣 蜘蛛等ハ各其名ヲ稱スヘシ

(十五年大政官達第三十九号同年内務省乙第四十三號參照)

●丙第二百十二号

明治十四年十一月五日

戶籍送受ノ義ハ徴兵事務上尤關係ヲ有スルモノニ付自今轉籍スル者全戸ハ戶籍

寫テ添家族ノ幾人又ハ單身ハ本人冒頭ニ登記アル廉其他徵兵ニ關スル類ハ送籍証ニ記入シ且全戸轉籍ノ者ノ中徵兵年齡以後ノ嗣子養子嗣承祖孫相續等ヲ廢シ他ニ出籍セシモノハ現在ノモノニハ無之凡該戸籍寫結尾ヘ其姓名年齡廢籍ノ事由年月日出籍先共朱記致并他ヨリ入籍ノ節ハ送籍証ノ領收書ヲ送籍先ヘ可交付他ハ送籍スルルハ該証ノ領收書ヲ要求スヘシ此旨相達候事

但送籍証ノ領收書ハ姓名年齡入籍先共記載スヘシ并從前達本文ニ抵觸ノ義ハ取消ト心得ヘシ

●甲第五十一號

明治十五年三月八日

今般郡ノ合併及ヒ役所ノ位置左ノ通改定候條此旨布達候事

但廣島區安藝郡佐伯郡高田郡賀茂郡豐田郡ノ役所ハ從前ノ通

- 沼田 高宮郡ヲ結ヒ郡役所ヲ可部町ニ置ク
- 山縣 御調郡ヲ結ヒ郡役所ヲ尾道ニ置ク
- 世羅 深津 沼隈郡ヲ結ヒ郡役所ヲ福山ニ置ク
- 安那

- 品治 品治郡ヲ結ヒ郡役所ヲ府中市村ニ置ク
- 神石 甲奴 甲奴郡ヲ結ヒ郡役所ヲ庄原村ニ置ク
- 三上 三上郡ヲ結ヒ郡役所ヲ上里村ニ置ク
- 三務 三務郡ヲ結ヒ郡役所ヲ上里村ニ置ク
- 三次 三次郡

●甲第五十二號

明治十五年三月八日

今般郡ノ合併及ヒ役所ノ位置改正候付テハ郡區ノ順次左之通相定候條此旨布達候事

- 廣島區 安藝郡 佐伯郡
- 高田郡 賀茂郡 豐田郡
- 深津郡 品治郡 沼隈郡 甲奴郡
- 三務郡 世羅郡
- 高宮郡 山縣郡 御調郡
- 三上郡 奴可郡
- 惠蘇郡

●甲第九号

明治十五年五月十九日

各町村鎮座氏神ノ儀ハ其土地ニ就キ從來一定ノ區域有之儀ニ付各自ノ信否ニ任セ狼リニ去就スヘキモノニ無之候條町村分合等ニヨリ不得止場合有之甲社ノ氏子一部落舉テ乙社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社神官氏子協議ノ上雙方連署可届出此旨布達候事

●丙第十號

明治十五年七月三日

寺院附地所建物什器等ヲ賣却シ其所有ヲ移スルハ必ス本寺法類ノ承認ヲ受ケ該書面相添差出候條寺院へ無沙示達スヘシ此旨相達候事

●丙第百拾貳號

明治十五年七月五日

町村立小學校へ金穀物品等寄附セントスルモノ自今出願ニ不及直ニ該小學校へ差出納濟ノ上届出候條可取計此旨相達候事

●甲第百七十五号

明治十五年九月廿九日

府縣社以下神官撰舉ノ節ハ自今皇典講究所卒業証書寫或ハ該所本分所試驗濟ノ証書ヲ添へ願出ヘシ此旨布達候事

●丙第百九十二号

明治十五年十月十四日

總テ入監ノ囚人婦女ニシテ三歳以上男囚ハ歳ノ定限ナク幼兒ヲ携帯スル場合其囚無籍又ハ有籍ナルモ資力無之シテ他ニ引受クヘキ親屬故舊等無之時ハ自今入監地若クハ捕得地又ハ該囚住居地ノ郡區長戸長ノ内へ引渡方當該官吏ヨリ可及照會等ニ候條右等ノ節ハ速ニ可受取此旨相達候事

●甲第二百七號

明治十五年十一月廿四日

本年甲第百七十五號ヲ以布達候府縣社以下神官撰舉ノ節皇典講究所卒業証書寫或ハ該本分所試驗濟ノ証書ヲ添へ願出ノ節ハ從來ノ神官ト雖モ以後他社へ轉シ若クハ他社ヲ兼務スル等都テ當廳ノ認可ヲ要スル節ハ該証ヲ添へ願出候條ト可相心得此旨布達候事

●甲第二百八號

明治十五年十一月廿五日

次女アル長女ヲ他ニ遺シ或ハ長女ヲ閣キ相續ノ爲メ二三女等へ養子致候節自今出願ニ不及戸長へ可届出此旨布達候事

但獨女子ハ此限ニ非ス

●縣丙第二百廿四號

明治十五年十一月八日

縣官出張巡回ノ節書記ノ出會ヲ要スル事件ハ其書面携帶セル管ニ付爲心得此旨

相違候事

●丁第二十九號

明治十五年十一月四日

年俸ノ備使雇人及備使へ賞與方ノ義深津沼隈安那郡長伺へ朱書ノ通及指令候條
右ニ照準可取扱爲心得此旨相違候事

別紙

備使之義ニ付伺

郡區役所戸長役場備使寫字生雇人取扱方ハ客年(三月廿六日)丙第六十二號御
達ノ赴有之候處右備使ニ當テハ月給ヲ以テ使用候ハ無論不苦義ト心得候得共
便宜ニ依リ年給ノ定メヲ以テ使用スルモ不苦候哉尙又月給年給ニテ使用スル
者ニ當リ超衆事務勉勵候節ハ一ヶ月給額以內ノ賞與郡區役所奉務ノ者ハ郡區
區長ノ許可ヲ得テ戸長ニテ取計不苦候哉併セテ相伺候

明治十五年十月十八日

深津
沼隈郡長岡田吉顯
安那

朱書
指令

書面伺ノ趣年俸ノ備使備入并備使へ賞與ノ義ハ不相成義ト可心得候事

但備使ノ内超衆事務勉勵ノ者へ俸給ノ殘余ヲ以手當支給ノ義ハ其都度事

由ヲ具シ經伺ノ上支給スル義ト心得ヘシ

明治十五年十月三十一日

廣島縣令千田貞曉代理

廣島縣大書記官平山靖彦

●甲第二百十二號

明治十五年十一月五日

外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版届出或ハ出版々權願出ノ節原著者ノ國名姓名及ヒ原
題名等原字ヲ以テ別紙ニ認メ願届書面ニ二通相添へ可差出此旨布達候事

但願届書面へ記載方ノ義ハ從前ノ通りタルヘシ

●甲第九號

明治十六年二月七日

陸軍々人軍屬戰死若クハ陣中傳染病ニ罹リ或ハ傷痍ニ原因シテ死シタル軍人ノ
寡婦孤兒へ陸軍恩給令ニ據リ扶助料下賜相成候迄手當金トシテ其等級ニ應シ該
扶助料ノ内左ノ金員當該軍人舊所管ニ於テ操替支給相成尤扶助料下賜ノ節右手
當金ノ儀ハ差引相成候條此旨布達候事

大將同相當官

六十六圓

中將同上	五十八圓
少將同上	四十一圓
大佐同上	三十三圓
中佐同上	二十八圓
少佐同上	二十圓
大尉同上	十五圓
中尉同上	十一圓
少尉同上	八圓
少尉候補同上并准士官	七圓
曹長同相當官	三圓三十錢
軍曹同上	三圓
伍長同上	貳圓五十錢
諸卒	二圓三十錢
文官七等以上ハ都テ武官ノ等級ニ准シ八等ヨリ十等迄ハ少尉ニ十一等以下ハ軍曹ニ等外ハ諸卒ニ准ス	

●丙第二十號

明治十六年二月二日

指令告示訓令等一旦發シタル后法律規則又ハ本縣達令ノ新出變改等ニ依リ事理自ラ轉換シテ全ク陳套ニ屬シ適從ス可カラサルモノトナルモ其時々取消ノ告知不致候爲心得此旨相達候事

●丙第二十三號

明治十六年二月六日

棄兒老疾又ハ疾病ニ罹リ昏倒者等有之警察官ハ申告シ或ハ該官之ヲ目撃スル片ハ該官ニ於テ一時保護ヲ加フト雖其重症危篤ニ涉リ又ハ日子ヲ要スル者等ノ如キハ警察官ヨリ可引渡候條不都合無之様可取計此旨相達候事

●甲第二十一號

明治十六年三月二十日

人民ヨリ差出候願届書ハ住所戸長ノ興印ヲ受クベシ此旨布達候事
但警察上ニ關シ當廳又ハ警察分署へ差出ス願届ニシテ別段ノ指定ナキモノハ本文ノ限リニ非ス

●甲第廿七号

明治十六年四月六日

神社寺院等創立再興復舊許可ノ分ハ今後滿二年以内ニ建設スヘシ其建物巨大ニ

シテ工事數年ニ渡ルヘキモノハ更ニ狀ヲ具シ伺出ヘク其他在來ノ社寺ニシテ變災ニ遭ヒ建物悉皆烏有ニ歸スル者滿五年内ニ再建シ右何レモ其都度明細書明治十二年甲第百九十一号及甲第百二十五号布達雛形ニ依ルベシ相添可届出若シ右期限ヲ過キ建設セサルモノハ許可ヲ停メ明細帳削除候條此旨布達候事

俱建物建替等ハ從前ノ通可願出勿論變災ニ而烏有ニ歸シタルモノハ其都度可届出并十二年甲第百九十一號明細書式中境外遙拜所招魂社祖靈社ノ書式ヲ廢シ候條都テ社寺書式ニ依ルヘシ

●丙第七十二号

明治十六年四月廿八日

本年(二月)丙第二十三号ヲ以乘兒老疾者及疾病ニ罹リ昏倒シタル者取扱等ノ體相違置候處右ハ都テ戸長ヘ引渡スヘクニ付相當ノ救護可致其救護ニ係ル費用乘兒ハ明治四年六月廿日公布養育米並同六年(四月)第百三十八号公布及救育規則ニ依リ老病者ニシテ恤救規則及救育規則ニ適合スル者ハ該規則依リ郡區長ヘ申出郡區長ハ右公布等ニ依テ處分スヘシ其他ハ家元ヨリ支弁セシムヘシ尤行旅人ニシテ疾病ニ罹リ昏倒シタル者ハ丙第七十三号達ノ通可相心得此旨相達候事

●丙第七十三号

明治十六年四月廿八日

行旅人重症飢餓等ニ迫リ目下難捨置者ハ戸長ニ於テ左ノ手續ニ依リ取扱フヘシ此旨相達候事

第一條

警察官又ハ郡區役所ヨリ引渡或ハ戸長ニ於テ目撃若シクハ申告ヲ受ケタル片ハ役場ニ於テ適宜救護ヲ加ヘ直ニ本籍戸長ヘ報知シ併テ原籍有無等照會スヘシ但病况及歩行ノ難易并ニ豫後ヲ記載シタル醫師ノ診斷書ヲ添付スベシ

第二條

救護ニ係ル費用ハ本人ヨリ直ニ支辨セシメ若シ支辨シ難キ者ハ一時戸長役場費ヲ以テ繰替置償却方本籍戸長ヘ照會スヘシ

第三條

町村在籍者ニシテ戸長前條ノ照會ヲ受ケタル片ハ其家元ヨリ取立償却スヘシ若シ家元亦貧ニシテ支辨シ難キ者ハ本籍地々方稅ヲ以下付スヘキニ付篤斗取糺相違無キニ於テハ其實事ヲ具シ仕譯書相添郡區役所ヲ經テ該金請求ノ上償却スヘシ

本人又ハ其家元動産若クハ不動産ヲ所有スル者ニ當テハ其財產ヲ以テ該費用ニ

供シ尙不足ヲ生シ辨償シ能ハサル場合ニ於テハ其不足ノ金額ニ限リ前項ニ依リ請求スルヲ得

第四條

無藉者ニシテ費用償却難相成者ハ救護地々方稅ヲ以償却スヘキ義ニ付事實ヲ具シ任譯書相添郡區役所ヲ經テ該金請求スヘシ

●甲第四十二號 明治十六年五月一日

縣社以下神社附屬ノ講社ニシテ教法部類ニアラサルモノ新ニ結集スル節ハ方法書相添當廳ノ認可ヲ受クヘシ此旨神社へ布達候事

●丙第七十九號 明治十六年五月二日

無藉在監人ハ放還ノ時藉ヲ望ノ地ニ定メシメ典獄ヨリ就藉地戶長へ通知書ヲ作リ本人ヲシテ携帶セシメ候條戶長ニ於テ就藉方可取計此旨相達候事

●甲第六十七號 明治十六年六月十八日

縣社以下寺境内樹木伐採及括損木下付願書ハ自今郡區役所ヲ經由差出スヘシ右社寺へ布達候事

●丙第一百十號 明治十六年六月十八日

社寺境内樹木伐採願等之義今般甲第六十七號ヲ以及布達候條生木伐採ハ客年(九月)丙第一百七十三號達ニ依リ枯損木ハ生存スヘキヤ否調査之上意見書相添へ差出スヘシ此旨相達候事

●丙第一百十四號 明治十六年六月廿日

戶籍ノ重複遺漏正誤ハ戶長ニ於テ取扱候處戶籍編製ノ際姓名申出談ノ旨ヲ以テ正誤願出者アルモ一旦戶籍ニ登錄シタル上ハ戶籍編製前ニ係ル確証戶籍編製後限ニ非ス呼スル者ハ此アルモノ、外ハ改姓名及復姓ナルヲ以戶長ニ於テ處分不相成并家名相續又ハ養子女入夫縁付分家斷縁願届ヲ怠リタル者後日ニ至リ戶籍訂正或ハ送入籍願出ル者アルモ前年月日ニ遡ル義ハ不相成候條申立ノ年月ヲ以成規ノ通戶籍ノ異動取計ヘシ此旨相達候事

但廢嫡ニ屬スル等特許ヲ受ヘキモノハ出願許可ノ上タルヘシ

●丙第四百十二號 明治十六年七月七日

徵兵其他統計表等取調ノ便益ニ供スルカ爲メ左ノ科目ニ該當スルモノハ戶籍簿中其欄内へ付義ヲ以種別ヲ表記シ爾後異動アル毎ニ之ヲ加除スヘシ尤入營ノモノハ戶籍書載方規則ニ依リ寄留ノ義其付箋内へ併記スヘシ此旨相達候事

但安政三年三月生ヨリ以後ニシテ自今該科目ニ該當ノモノハ此際總テ附箋
記入可致候事

明治何年 常備歩兵	同上 常備砲兵	同上 常備輜重兵
同上 常備工兵	同上 常備看病卒	同上 補充兵
同上 常備輜重輸卒	同上 第二豫備	同上 第一豫備
同上 不合格	同上 翌年廻	同上 豫備軍
同上 後備軍	同上 歸休兵	同上 士官學校入校

同上
教導團入團

同上
海軍水兵

●甲第七十八號

明治十六年七月九日

戸主退隱ノ後分家或ハ他家相續又ハ離縁實家へ復籍并寡婦當主ノ離縁復籍等尊
屬離縁他家相續及ヒ戸主退隱セヌ跡相續人立置他へ養子或ハ人嫁之義自今出願
ハ及ハス戸長へ申立ヘシ

右布達候事

●甲第八十三號

明治十六年七月十九日

本年廿一號布告ヲ以テ出板條例中改正ニ付第一條ノ起程ニ循ヒ届出候モノハ右
日數ヲ除キ十日前ニ當廳へ差出スヘシ

右布達候事

●丙第百五十六號

明治十六年七月廿三日

今般甲第八十六號布達候ニ付テハ其受部内ニアル分署長任免ノ節ハ該分署ヨリ
直ニ通知ノ管ニ候條此旨相候達事

●丙第百六十四號 明治十六年七月卅日
行旅人天災ニ罹リ飢餓等ニ迫リ目下難捨置モノハ本年(四月)丙第七十三號達ノ
通救護等取計ヘシ此旨相達候事

●丙第百七十六號 明治十六年八月十七日
縣社以下祠官祠掌撰舉ノ義明治八年六月二十四日區長ハ相達候處右ハ取消候條
自今氏子氏子ナキ神歸依ノ者撰舉總代并ニ最寄重立タル神官二名以上連署爲願
出戸長於テ爲人可否爲斗取札副書ヲ以テ進達可致此旨相達候事

但皇典講究所卒業証書寫或ハ該本分所試驗證書添付之義ハ客年九月甲第
百七十五號同年十一月中第百七號布達之通リタルヘシ

●丙第百九十八號 明治十六年九月十四日
行旅中死亡又ハ天災或ハ重病飢餓ニ迫リタルモノ取扱ノ義客年(九月)第四十九
号公布并ニ本縣丙第七十三號達ノ趣有之候處陸海軍常備下士卒單身行旅中右等
ノ場合本人引渡及費用償却ノ義ハ先以當廳ヨリ所轄軍衙ヘ可及照會候條仮埋葬
又ハ相當救護ヲ加ヘ迅速ニ頒未具狀當廳ノ指揮ヲ請フヘシ此旨相達候事

●丙第百三十二号 明治十六年十月廿四日

其役所ニ於テ管理スル所ノ事件ハ其成績ヲ統計シ毎年一月十五日迄ニ前年分ノ
表ヲ製シ之ニ對スル辨明及ヒ爾後一年間當ニ施スヘキノ目的等ヲ詳記シタル意
見書ヲ添ヘ親屬ノ手續ヲ以テ差出スヘシ此旨相達候事

●甲第百五十號 明治十六年十二月十四日

外國勳章受領者ヨリ佩用免許願出手續ノ義明治十一年六月第十五號布告之通ニ
候處自今右布告面記載ノ外別紙雛形ニ準シ供閱物件目錄相添出願スヘシ
右布達候事

○別紙

供閱物件目錄

- 一勳章 某國章名及ヒ等級ヲ記スヘシ
 - 一勳記 若シ之レナキ時ハ其理由ヲ記スヘシ
 - 一畧綬 有無トモ記載スヘシ
 - 一勳記譯文
 - 一外務省副狀
- (一右之外務省副狀アヲハ其副狀ヲモ添フヘシ)

右佩用免許相願候ニ付差出候也

年 號 月 日

●丙第二百八十一號 明治十六年十二月廿二日

長男分家或ハ他家ノ養子トシ他ニ男女子ナク又ハ次三男アリト雖モ跡嗣子未定中該長男復藉スルモ更ニ嗣子成届出サルニ於テハ直ニ嗣子ト公認不相成尤該長男ヲ閣キ他ノ子孫ヲ以テ嗣子トシ又ハ該長男ヲ更ニ分家或ハ他家ノ養子又ハ相續人ト爲ントスルルハ從前ノ通當廳へ願出サスベシ此旨相達候事

●丙第三號 明治十七年一月十一日

亡兄ノ遺妻其弟ト結婚ノ義ハ不相成候得共自今至重ノ事實詳記當廳へ出願候様致スヘシ此旨相達候事

●丙第九號 明治十七年一月十九日

失踪逃亡死亡及絶家ノ財産ヲ戸長ニ於テ保管スルルハ財産目錄ヲ作り郡區長ニ差出スヘシ此旨相達候事

●丙第三拾八號 明治十七年二月廿日

人命救助者徳行者及ヒ公益ヲ興セシ者等具申之節ハ左ノ件々ヲ記載スヘシ此旨

相達候事

但明治十五年(十二月)丙第二百五十三號及ヒ同十六年(六月)丙第百十五號

郡區長へ達ハ廢止

一住所族籍

二官位勳等

三姓名年齢

但非戸主ハ戸主ノ名ト續柄ヲ肩書ニスヘシ

四受賞受刑ノ有無賞罰トモ其全文ヲ記スヘシ

五戸長等ノ具狀書

人命救助者

六最モ危難ト見認ムヘキ實況

七數人ニテ救助セシ場合ニ於テハ其内最モ率先盡力ノ者ヨリ甲乙ノ區別

八水難者ヲ救助スルモノハ游泳シテ其所ニ到リシヤ又ハ船筏或ハ助綱等ヲ以

テセシヤノ區別

九水難者ト救助者ノ船又ハ陸トノ距離及ヒ河海ノ淺深廣狹水勢ノ緩急等

德行

- 十 履歷
- 十一 平素ノ行狀
- 十二 其志行最モ卓絶ト見認ムル件
- 十三 志操ヲ變セサルノ年數
- 十四 平素ノ志行
 - 公益ヲ興セシ者
- 十五 事業經營ノ始末及ヒ將來維持ノ方法及ヒ費金ノ額
 - 該金ハ本人ヨリ支出セヨリ寄贈ニ係ル等ノ譯
- 十六 學校病院等ヲ設立セシモノハ其構造並建坪其他教師生徒及ヒ醫員患者等ノ數
- 十七 疏河築堤修路墾出ニ係ルモノハ工事摸樣着手及ヒ竣工ノ年月施工前後實地ノ景况又ハ川幅堤等ノ里程間數詳細繪圖ヲ要ス
 - 金穀財産及勞力等ヲ寄附シタル者
- 十八 金穀財産等ノ員數其價格

但價格ハ其當時ノ相場ヲ記スヘシ

十九 町村組合會社等ニテ聯合出金シタルルルハ某町某村其組合會社ト記スヘシ

二十 勞力

但勞力ニ該當スヘキ其金額ヲ記スヘシ

右ノ外ト雖モ緊要ノ件ハ記載スヘシ

● 丁第五号

明治十七年二月廿八日

其郡内戸長ノ内職務上ノ疑議不急ニ属スルモノニシテ電信用候向モ往々有之候所以後ハ特ニ至急ヲ要スルモノニ限り其他ハ餘テ郵便ヲ以テ差出候様豫テ各戸長ヘ可達置此旨相達候事

● 丙第六十一號

明治十七年三月十五日

太政官文書局ヨリ發行スル官報ヘ掲載ノ資料別紙主任官注意及報告事項并細目ニ準シ且特ニ報告主務者ヲ定メ精々注意續々第三科ヘ通報スヘシ此旨相達候事

○ 別紙

主任官注意

一官報資料原稿ニハ別ニ送附書若クハ添書ヲ要セス 特別ノ事情アリテ添書ヲ
 一單ニ其發遣ノ月日ヲ原稿紙ニ附記シ其儘封緘ノ上郵送ニ附スヘシ但シ印
 刷シタル月報ノ類ハ帶封又ハ開キ封ニテ郵送スルモ妨ナキ事
 一緊要ノ關係アル事項ニシテ至急官報登載ヲ要スル件ハ電信ヲ以テ報告シ通
 常ノ件ハ普通ノ郵便ニ附シ寄留ニ及バサル事
 一官報資料原稿ニハ其事柄ニ關係アル人名場所時日等ヲ詳記スル
 一報告事件ノ種類ニ依リ始終連續セザレハ報告ノ用ヲナサハルモノアリ例ヘ
 ハ前ニ早魃ノ景況ヲ報告シテ後ニ潤雨ヲ得タルル景況ヲ報告セサルカ如
 キノ類是ナリ其他是ニ類スルモノ多シ故ニ總テ始メアリ終リアル様報告ヲ
 要スル事
 一新聞紙又ハ雜誌ニ於テ府縣ノ公務上若クハ府縣ノ利害ニ關スル重大ノ件ニ
 付キ誤謬ノ説ヲ掲載シタルルハ詳細事實ヲ記シ直チニ之ヲ報告スヘキ事

報告事項并細目
 報告事項ハ大略左ノ如シ 一雜事 二兵事 三學事 四農事 五商事 六工
 事 七衛生事項 八警察事項

第一 雜事ノ原稿トシテ報告スヘキ事項ハ左ノ如シ
 一郡區長緊要事件ニテ出張巡回上京并其發着ノ地名時日用向等
 二勅委任官以上ノ巡回視察等ニ付到着及出發ノ地名時日等
 三天災并時變等
 四 火災官舎學校銀行等ノ火災其他通常民家
 火災ハ凡百戸以上ノ大火ニ至ルモノ

第二 兵事ノ原稿トシテ報告スヘキ事項 一軍艦ノ出入 港灣アル
 郡區

第三 學事ノ原稿トシテ報告スヘキ事項ハ左ノ如シ
 一教育會ノ興廢會員ノ増減并其報告等
 二一般私立學校其他各種學校ノ教育上景況及生徒ノ増減其原由等

●甲第四十號 明治十七年四月五日
 寺院佛像他管持出開帳停止ノ義明治九年六月廿三日布達廢止候條自
 院佛像
 他管內持出開帳ノ義ハ該寺院住職檀家總代 無檀家ノ寺院 及本寺法類 署ノ上本
 山ノ添書ヲ以テ甲乙兩管廳へ出願スヘシ
 但寶物持出ハ不相成義ト心得ヘシ
 右布達候事

●丙第七十五號 明治十七年四月九日
郡區書記并御用掛拜命ノ輩ハ自今拜命ノ當日 赴任ノ輩ハヨリ七日以内ニ別紙離形ノ通履歷書調製可差出尤御用掛ヨリ書記ニ任セラル、モノハ別段差出ニ不及此旨相違候事

但明治十二年縣丙第二百六十五號本縣達ハ廢止ス

○別紙

用紙美濃紙

何府(縣)(華)(士)族(平民)

何 某

何年何月生

何年何月何日

一任何(官)何々申付候事(辭令書全文ヲ書載スヘシ以下同シ)

何官(省)(府)(縣)(何廳)

同上

一依願(免本官)(何々差免候事)

同上

同上

一管外御用出張

同上

一賞罰

同上

●丙第七十四號

明治十七年七月廿九日

町村立學校長教諭助教諭訓導酬勞金給與規則別紙ノ通相定ム此旨相違候事

別紙

廣島縣町村立學校長教諭訓導酬勞金給與規則

第一條 酬勞金ハ奉職ノ年數ニ依リ退官若クハ死去ノ際其在職セシ小學校ヨリ給與スルモノトス

第二條 酬勞金額ハ滿二年在勤ノ者ハ現月給一ヶ月分ヲ給シ以上一ヶ年ヲ加フル毎ニ現月給一ヶ月分ノ二分ノ一ヲ加フ其一ヶ年ニ滿タサル端月數ハ總テ切捨テ計算スルモノトス

第三條 甲校ヨリ乙校ニ轉スルハ其都度打切り支給スルモノトス

但同學區内ニ於テ轉動スルハ本條ノ限ニアラス

第四條 一校中ニ於テ校長ヨリ教諭助教諭訓導又ハ教諭助教諭訓導ヨリ校長ニ轉スル時ハ前後在職ノ年間ヲ通算支給スルモノトス

第五條 町村立學校長教諭助教諭訓導ニアラサル他官ヨリ兼務ノ學校長教諭助教諭訓導ハ五年以上勤続ノ者ニ限り五圓以上五十圓以下ノ酬勞金ヲ支給スルコトアルベシ

第六條 酬勞金ヲ交付スルハ此規則發布ノ月ヨリ起算シテ施行スヘキモノナリ

第七條 品行檢定規則ニ觸レ其職ヲ停罷シタル者ハ勿論其他不都合ノ行爲アリテ諭示退官セシメタル者又ハ刑事裁判ニ依リ免官セシ者若クハ自己ノ便宜ニ依リ退官ヲ請フ者ニハ總テ酬勞金ヲ交付セサルモノトス

●丙第九十七号 明治十七年八月廿五日

戸主死亡後ヲ除ク外年長ノ者ヲ養子ニ貰受クル義不相成尤戸主疾病其他不得已事故ニ依リ年長者ヲ以テ相續セシメサルハ一家ノ浮沈ニ關スルモノニ限り親

族ノ熟儀ヲ以テ先代ノ養子トナシ相當ノ者ヲ貰受相續人トシ家名繼承セシメントスル者ハ事情詳記シ當廳へ願出候様示諭スヘシ此旨相達候事

●甲第二百二十九号 明治十七年九月五日

本縣下官林農務省山林局ニ於テ直轄相成候ニ付農務省廣島山林事務所ヲ廣島區廣島天神町百八番地ニ置キ本月五日開廳事務取扱候付自今官林ニ係ル諸願伺等總テ農務省廣島山林事務所宛ニテ本人住所戸長及官林所在地ノ戸長共與印ノ上郡區役所ヲ經由シ事務所へ差出スヘシ

●甲第三百三十五号 明治十七年九月廿二日

本年(九月)甲第二百二十九号ヲ以官林ニ關スル願伺差出方及布達候處左ノ事項ハ本年(二月)甲第十三号本縣布達ニ依リ當廳へ差出ヘシ

- 一官林ニ係ル國郡町村字等渾テ土地境界釐正ニ關スル願
- 一官林ニ係ル遺路變換及墓地火葬場設置願
- 一官林ニ編入セサル官有山林ニ關スル一切ノ願届
- 一官林ヲ池溝河川堤塘ニ變換願
- 一官林ヲ學校敷地ニ下渡願

一官林ヲ病院郷倉敷及溜池溝渠敷地ニ拂下又ハ使用願
一官林ノ内社寺境内外區畫ニ關スル願

右布達候事

●甲第四百十九號

明治十七年十月十五日

官有ノ水面ヲ埋立使用セント欲スルモノハ左ノ通り相心得ヘシ

但明治十二年^五月甲第九拾壹號本縣布達ハ廢止ス

第一條 水面ヲ埋立テ使用セント欲スルモノハ左ノ事項ヲ具シ埋立ノ許可ヲ
請フヘシ

- 一土地所在ノ^(郡町)海面ハ某國某^(區村字)地先ト記スヘシ^(地目反別)
 - 一水下ノ深尺^(海面ハ滿潮ノ深)
^(尺ニ據ルヘシ)
 - 一地盤築調ノ期限^(許可ノ日ヨリ幾)
^(日間ト記スヘシ)
 - 一地盤築調ノ后使用スル地目
 - 一地形ヲ明瞭ニ描寫セル圖面
- 第二條 前條ノ場合ニ於テハ支障ナキヲ證スル近傍地主ノ書面ヲ添附スル歟

若シクハ願書ニ連署ヲ受クヘシ

第三條 埋立望人二名以上アル片ハ地代金入札ヲ以テ拂下クルモノトス尤モ

此場合ニ於テハ落札者ハ此布達ニ依リ埋立ノ許可ヲ受ケ地盤ヲ築調シ土地

下渡ヲ出願ノ際地代金ヲ上納スヘシ

第四條 左ノ事項ニ該當スル者ハ埋立許可ノ効力ヲ失スルモノトス

一埋立期限内工業ニ着手セサルモノ

一埋立滿期ニ際シ地盤築調ニ至ラサルモノ

第五條 地盤築調ニ至レハ各地目限リ反別ヲ丈量シ明細地圖^{(丈書ノ細目間}

ヲ要)ヲ添ヘ堤塘道路溝渠等ノ敷地ヲ除キタル土地ノ下渡ヲ出願スヘシ

右布達候事

●丙第四百四十四號

明治十七年十月二十日

河川航路別紙雜形ニ據リ取調來ル十一月五日限リ差出スヘシ此旨相達候事

何川流域航路何十里何町何間(但筏ノ通送スル以上ヲ航路トス)

右ノ内

幹川 何里何町何間

支川 但某地ヨリ(或ハ何郡區管)海口某地ニ至ル(或ハ何郡區管轄
 何川 全上
 何川 但某地ヨリ(或ハ何郡區管)於某地某川合流(或ハ何郡區管轄
 何川 全上
 小支 但全上
 何川 全上
 何川 但全上
 派川 全上
 何川 但某川分流某地ヨリ(或ハ何郡區管)海口某地ニ至ル(或ハ何
 轄界某地ニ至ル)

何川 全上
 但全上
 小派川
 何川 何里何丁
 但全上

●甲第百五十一號 明治十七年十月廿一日
 國稅檢査ニ關スル(地稅ニ係ル)願届書ハ自今所轄收稅課派出所若クハ檢査官ハ
 差出スヘシ

右布達候事

●丙第百八十一號 明治十七年十一月廿六日

本年(十月)丙第百四十九號本縣達農商務省通信規則ニ據リ通信員ヨリ直接ニ
 主務局へ報告ヲ要スヘキモノハ當分ノ内左ノ事項ニ限ルベシ此旨相達候事

但本年(四月)丙第七十七號達ハ廢止ス

- 一 虫害蔓延ノ勢アルトキ
- 一 牛馬傳染病劇烈ノ徴候アルトキ

●丙第二百八十二號

明治十七年十一月廿八日

祠宇并ニ寺院創立再興復舊引直移轉廢合及附屬ノ地所建物什物抵當賣買其他賣物古文書等財産ニ關スル諸願ハ寺院ハ本寺 管長ノ添書ヲ附シ差出シ候様神官僧侶へ示達スヘシ此旨相達候事

●丙第三百十六號

明治十七年十二月廿三日

海軍下士以下家族扶助金各自受領証書離形別紙ノ通相定候條本月渡ノ分ヨリ右ニ照準差出候様取計フヘシ此旨相達候事

○別紙

受領証

用紙半紙ニツ切り

一金何圓

海軍下士或
家族扶助金

但何年何月ヨリ何月迄何ヶ月分

此但書ハ一期中金額ノ扶助金ヲ受領爲シタル并ノ例ニ付若シ本人免没死亡逃亡其他ノ事故ニ依リ金高ニ増減ヲ生セシ分ニ當テハ該金交付達

ニ附屬スル仕譯書中ノ記事ニ倣フテ記載スヘシ
右金額正ニ受領仕候也

何府何國郡町何番屋敷

父母

右何某兄弟(其他一戸藉中ノ者ナレハ其尊卑)
妻子(族各自ノ名稱)

年號月日

同 姓 某 印

(但戸籍外ノ親戚故舊等代理スル并ハ親戚故
舊代理ト肩書シ其姓ヲ以テ捺印スベシ)

縣令宛

●丙第三百廿號

明治十七年十二月廿七日

舊陸軍恩給令ニ據リ恩給扶助料ヲ受ケタル者改正陸軍恩給令御發布後ニ於テ事故生セシ并ハ總テ改正令ニ據リ處分スヘキ管之處文官ノ職ニ就キタル者恩給等停止ノ事ニ限リ本年陸軍省甲第三十八號達(本年九月本縣丙第)即チ八月廿六日ヨリ改正令ニ據リ處分可致旨其筋ヨリ達有之候條爲心得此旨相達候事

但本文改正令ニ據リ恩給等停止スヘキハ准官吏以上ニシテ其俸給ヲ受クル者又扶助料ヲ停止スヘキハ官署ニ奉職シ以來支出科目表中俸給ノ部ヨリ支

一本表町村戸數以下ノ四區ニハ参照トシテ幅條地所在ノ全町村ニ係ル員數ヲ掲
グヘシ
一人口一百以上幅條トハ一町村ノ幾部ニ於テ連條群居スルモノヲ指ス其全町
村ニ亘ルモノハ取調ヲ要セス

一連樁櫛比ノ地ニアル社寺及官廨ノ坪數ヲ取調備考欄内ニ記入スベシ
一庭園倉庫ハ個數ヲ記入スヘシ

●甲第九十六號 明治十八年五月十八日

土地所有者ニシテ該地所在ノ戸長管理外ノ町村ニ住居スルモノハ地租地方稅備
荒公儲金區町村費ヲ納ムル爲メ該地所在ノ戸長管理内ノ町村へ代人ヲ置其戸
長へ届出ツヘシ若シ所有者ノ住所戸長管理外ニ在ルモ接近ノ町村ニシテ納稅等
ニ差支ナキニ於テハ該戸長ノ承認ヲ請代人ヲ置サルヲ得

但明治十五年(四月)甲第八十八號本縣布達ハ廢止ス
右布達候事

●丙第八十六號 明治十八年六月五日

(學務委員)衛生委員(兩委員ハ)勸業委員ヨリ差出ス願伺届書ハ郡(區)役所ヲ
經由スヘシ此旨相達候事

●丙第二百三十三號 明治十八年七月十一日

郡區長ハ縣令ニ伺出ツベシ此旨
郡區長戸長ニ於テ任地ヲ離レ候時ハ事由ヲ具シ 戸長ハ郡區長ニ
相達候事

窮民救助米給與表

但時機不得已場合ニ限リ其事由ヲ具シ届出ツベシ

●丙第二百四十七號 明治十八年七月十八日

救助規則ニ依リ給與シタル救助米代換替金ノ義ハ自今別表書式ニ依リ取調請求
書ニ添付可差出此旨相達候事

別表

名	稱	給與日	給與額	右代相場	給與金員	住 所	給與氏	誰	老 衰		疾 病		幼 弱	
									何 日	何 額	何 日	何 額	何 日	何 額
何	合	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	合	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	合	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	合	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	合	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	合	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	合	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	合	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何

是ハ土地家屋ヲ所有シ賣却セントスルニ購求者ナク且ツ他ニ親戚隣保等ノ救助
スルモノナキ云々ノ事實ヲ一家毎ニ詳記スヘシ

計 何石何斗 何拾何圓 幾人

右之通候也

年月日

何郡(區)長 氏名 印

●甲第七十三号

明治十八年九月廿五日

陸海軍恩給令ニ依リ恩給ヲ受クル者賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ処セラレタル
トキハ同令第六條第一項ニ準シ扶助料ヲ受クル者同上ノトキハ同令 陸軍ハ第二
ハ第二ニ準スヘキ儀ト可心得旨公達アリ 十八條 海軍

但明治八年(四月)第四十八號達陸軍武官傷疾扶助死亡ノ者祭案家族扶助概
則及同年(八月)第百四十八號達海軍退隱令ニ據リ扶助料若クハ退隱料ヲ受
クル者モ有之向ハ本文ニ準ス

右布達候事

●丙第二百九十號

明治十八年九月廿一日

明治十七年(八月)丙第百九十號本縣達管理事件表様式別表之通り更正候條此旨
相達候事

○別表

郡區事件表

掛名	縣廳及他廳戸長以下人民		平均一日
	來翰	往翰	
庶務	要處分	不要處分	
兵事	要處分	不要處分	
勸業	要處分	不要處分	
學務	要處分	不要處分	
租稅	要處分	不要處分	
出納	要處分	不要處分	

合計

掛名ハ郡區役所ノ掛名ヲ記載シ平均一日ノ件數ハ執務日數ヲ以テ件數ヲ除シタル商ヲ掲グヘシ

●甲第九十號

明治十八年十月十九日

陸海軍恩給令ニ依リ恩給若クハ扶助料ヲ受クルモノ同令第六條ニ該當スルトキハ其事由書及禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ申渡書寫ヲ添付シ本人若クハ親族ノモノヨリ速ニ届出ヘシ

但賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレ本年(九月)甲第七十三號本縣布達ニ該當スルモノハ本文同様届出ヘシ

右布達候事

●丙第三百十三號

明治十八年十月十二日

失踪逃亡者絶家ノ財産處分ノ義ニ付今般内務省於テ太政官ノ裁令ヲ經テ別紙寫ノ通愛知縣ヘ指令相成候旨其筋ヨリ通牒來候條爲心得此旨相達候事

別紙

本年第二十號ヲ以テ單身戸主死亡又ハ除籍ノ日ヨリ滿六ヶ月以内ニ跡相續者ヲ届出サル者ハ總テ絶家トスト公布ニ付テハ從前單身戸主死亡又ハ失踪逃亡者ノ負債償却又ハ遺留財産處分方會テ本縣伺御指令モ有之候處自今負債償却ノ義ハ最前御指令ノ通相心得且遺財ハ親族ノ協議ニ任スハ勿論ト雖且親戚無之モノ或ハ親戚アルモ其遺產取扱ヲ望マサルモノハ死亡又ハ除籍後滿六ヶ月ヲ經過シ相續人無之モノハ郡區長ニ於テ官沒ノ處分ニ爲取扱可然哉此段相伺候也

明治十七年七月十七日

愛知縣令國貞廉平

内務郷山縣有朋殿

(朱書)

書面伺之趣死亡絶家ノ遺產ハ死亡ノ日ヨリ失踪逃亡者ノ遺產ハ除籍ノ日ヨリ何レモ五ヶ年間戸長ニ於テ保管ノ上官沒シ地方稅雜收入ニ組入ルヘキ義ト可心得事

但負債償却處分ノ義ハ從前ノ通

明治十八年九月十五日

内務卿印

●丙第三百二十號

明治十八年十月廿六日

陸海軍恩給令并官吏恩給令ニ依リ恩給若クハ扶助料ヲ受ル者ノ内寄留地管廳ニ於テ恩給若クハ扶助料ヲ受ル者其受領ノ權利消絶死亡者ヲ除クニ至リ又ハ轉籍及改姓名等ノ如キ本人ニ異動ヲ生スルルハ其旨直チニ本籍戸長ヨリ當廳ヘ届出ツヘシ此旨相達候事

但陸軍武官傷痍疾病扶助概則并海軍退隱令ニ依リ退隱料及扶助料ヲ受ル者

モ本文同様取計フベシ

●丙第三百三十六號

明治十八年十一月十日

農事臨時報之義ハ敏捷ヲ要スルノミナラス摘要簡明ニ記載セサレハ効用薄ク時トシテハ其要項ヲ漏脱シ或ハ事理判明ナラザル爲メ推問往復ニ日子ヲ費シ終ニ時機ニ後レ其筋ハ報道方差支不都合不勘ニ付其書式別表之通相定メ候條今後一層注意ヲ加ヘ遲滞ナク通信可致此旨相達候事

○別表

農産被害臨時通信表

通信者

名稱	要目	年月日時刻風力		洪水旱	虫	害	郡村名	反別	半年収	被害減	作柄歩
		天候	風力								
備考											

表解

○本表ノ記載方ハ例之ハ水害ヲ掲グルニ當リ當リ甲村被害ノ反別ハ乙村ニ比シ増減アルモ其額同等ノ害ニ罹リタルルハ地名反別ノ兩欄内共一欄ニ甲乙兩村ヲ列記スルモ妨ケナシ之ニ反シ兩村被害ノ歩合概重ヲ異ニスルモノハ甲乙ヲ分カツテ兩欄ニ記入スヘシ又其被害數種ノ農産ニ及フモノハ毎種別表ニ掲グヘシ其村數多キニ亘リ一表ニ掲ケ難キモノハ全種ノ農産ト雖ルニ表或ハ三表ニ掲グルモ妨ケナシ其他ノ害モ亦之ニ準シ記載スヘシ其一例及ヒ末欄ニ合計平均歩合ヲ掲グル左ノ如シ

表中〇印ハ朱書

名稱	要目		名	日	時刻	風力	天候	洪水	旱	虫	害	郡村名	反	別	額	年	收	額	被害	減	額	合	作	柄	歩	
	五月廿一日午	前第十十分																								
〇一稻	五月廿一日午	前第十十分	何川									何々郡	八町三						百廿四	三十七						
	暴風強雨翌廿二日午後第十	二時三十分雨	洪水									何々村	反歩						石五斗	五升						
合計												全何々	五町歩						五十石							六歩
												村	十三町						百七十	五十七						六歩七
												二ヶ村	二反歩						四石五	石三斗						五升

歩合ハ例之ハ甲村ノ害地八町三反歩ニシテ此ノ平年收獲米百二十四石五斗ナリ然ルニ水害ノ爲メ其收獲ノ減額三十七石三斗五升ナルルハ七歩ノ作柄ナリ又乙村被害地ハ五町歩ニシテ此平年ノ收獲五十石ナリ然ルニ水害ノ爲メ其收獲ヲ減スル一二十石ト認ムルルハ其作柄六分ナリ甲乙兩村平年ノ收額合計百七十四石五斗ヲ以テ同シク兩村ノ減額合計五十七石三斗五升ヲ除

算シ合計歩合欄内へ平均六歩七厘ト記入スルカ如シ

○ 號此ノ欄内ニハ郡衙或ハ通信委員ニ於テ本表用紙ヲ以テ通信セシ初回ヲ第一號トシ爾後通信スル毎ニ順次ニ號ヲ記スヘシ

通信者 此ノ欄内ニハ郡衙ハ何々郡長何ノ

某團農商務通信委員ハ何々郡何々村通信委員何ノ某團ト記スヘシ

名 稱 此ノ欄内ニハ稻、麥、粟、黍、大豆、蕎麥、蜀黍、玉蜀黍、甘藷、馬鈴、甘蔗、棉、麻、茶、藍、楮、髓、煙草、養蠶、桑、漆、茶種、漁蠟、製鹽等其種類中被害ノ物名ヲ掲クヘシ

○ 月日時刻風力天候

此ノ欄内虫害ハ發見セシ月日即チ何月何日ト掲クヘシ又暴風強雨ハ何月何日午後何時何分ヨリ暴風北東強雨翌何日午後何時何分雨止

風收ルト欄内ヘ二行ニ記入スヘシ虫害旱魃等最初ノ時刻不分明ナルモノハ時刻ヲ掲グルニハ及ハス暴風驟雨等ハ始終ノ時刻ヲ記スヘシ風位風力天候ハ左ノ階級ニ依リ記載スヘシ

風位ヲ八點ニ分ツ



風力ヲ七種ニ分ツ

天候ヲ九種ニ分ツ

無風	細煙直昇	樹葉	晴	雲ノ半天ニ滿タル者
軟風	類ニ風ヲ感シ	小葉	雲ノ半天ニ超タルモノ	細雨強雨驟雨淫雨霖雨
和風	樹葉ヲ動搖ス	旗	霧	厚サ
疾風	小樹ヲ動搖ス	霧	濃淡	濃淡
強風	樹幹ヲ動搖ス	霧	濃淡	濃淡
暴風	樹幹ヲ破折ス	霧	濃淡	濃淡
颶風	樹幹ヲ倒シ	霧	濃淡	濃淡
	破壊ス	霧	濃淡	濃淡

○虫害欄内ニハ明治十四年縣第二百四號達即チ左ノ區別ニ依リ例之ハ鱗翅類
螟虫ト其虫類ヲ掲グルカ如シ
○洪水旱魃ノ欄内ニハ旱魃ハ其二字ヲ掲ケ洪水ハ何々川洪水ト掲ケヘシ

虫類區別

- 無翅類 蚤、虱、蟻、等之ニ屬ス
 - 甲翅類 金龜子、天牛、叩頭虫、及蝨蟻、等之ニ屬ス
 - 膜翅類 蜂、蟻、鋸花娘子、等之ニ屬ス
 - 直翅類 蝻、蝗、蟋蟀、等之ニ屬ス
 - 鱗翅類 蝶、蛾、蠶、螟、蠅、尺蠖、等之ニ屬ス
 - 半翅類 蝻虫、椿象、蟬、浮塵子、等之ニ屬ス
 - 雙翅類 蠅、虻、蚊、等之ニ屬ス
- 右ノ外蛇、蛙、蟹、蟻、蜈蚣、蛭、蜘蛛、等ハ各其名ヲ掲ケヘシ
- 郡村名欄内ニハ被害ノ郡村名等ヲ記載スヘシ
 - 反別欄内ニハ被害ノ反別高ヲ記スヘシ
 - 平年收額ノ欄内ニハ明治十七年十二月十六日丙第三百七號達ニ據シ其收額ヲ記載スヘシ
 - 被害減額ノ欄内ニハ被害ノ損額ヲ平年收額ニ照シ其歩合ヲ掲グルモノトス
 - 作兩歩合欄内ニハ被害ノ農産一物ニ當リ豫算ヲ以テ其作柄ヲ平年ニ比シ收

獲ノ歩合ヲ掲クヘシ例之ハ平年ニ比シ三步ノ被害ナルルハ七步作ト云フカ
如シ

○備考欄内ニハ例之ヘハ虫害ノ如キハ其種子ノ産所前作ノ景况氣候ノ適否肥
料ノ種類實施シタル驅除豫防ノ方法及其成績或ハ暴風強雨海嘯洪水等ノ節
農産ハ勿論樹木家屋道路堤防橋梁船泊等ノ被害或ハ之ニ關シ河海ニ異狀ア
レハ其景况等ノ要點ヲ摘載スヘシ

●丙第三百六十一號 明治十八年十二月十二日

農商務通信員ヨリ發スル通信ハ本年丙第三百三十六號ニ基キ報告スヘキモノ
、外ハ可成郵便はがきヲ使用候様可致此旨相達候事

●丙第三百七十二號 明治十八年十二月廿四日

華族ノ養子女縁組離縁復籍及質屬替轉居等ノ節戸長ニ於テ送入藉ノ手續ヲ了
シ候ハ、其旨郡區長へ届出郡區長ハ直子ニ宮内省華族局へ通牒スヘシ此旨相達
候事

●丙第三百七拾二號 明治十八年十二月廿四日

祠宇並ニ寺院官有地ニ係ル境内ノ異動及伐木等ノ願ハ明治十七年(十一月)丙第

二百八拾貳號本縣達ニ準シ可差出旨神官僧侶へ達スヘシ其旨相達候事

●丙第五號 明治十九年一月九日

自今郡區役所ニ於テ官報購讀スヘシ此旨相達候事

但代價ハ四ヶ月纏メ本廳會計課へ前納スヘシ

●丙第七號 明治十九年一月十三日

官報資料報告ノ義ハ明治十七年(三月)丙第六十一號ヲ以テ相達候處該通信ノ義
ハ極メテ敏速事實ノ精確ヲ要スル義ニ付主務官ヲ精選シ且ツ該達報告事項ノ外
ト雖モ官報資料ト認ムルモノハ速ニ第三編へ報告スヘシ此旨相達候事

●甲第貳拾三號 明治十九年二月十九日

新聞紙雜誌類ノ發賣所發賣人ヨリ之レカ受賣ヲ爲サントスルモノハ族籍住所氏
名及其新聞紙雜誌類ノ種類ヲ記シ開業三日前ニ所轄警察署ヲ經由届出ツヘシ其
族籍種類等ヲ轉換増減シ又ハ廢業シタルルハ此旨速ニ届出ツヘシ

但從前ノ營業者本月二十八日限リ本文ノ届出ヲ爲スヘシ

右布達候事

●丙第五十六號 明治十九年三月十三日

其役所ヲ經由スヘキ願届等ニシテ別ニ意見アルモノハ之ニ副申書ヲ付シ其他ハ何郡(區)長某調査ノ印ヲ捺スヘシ

●丙第六十一號 明治十九年三月十六日

郡區書記并備毎年十月末日現在別表ニ準シ取調翌月五日程差出スヘシ
但明治十六年(十二月)丙第貳百八拾號本縣達ハ廢止ス

書	記	備
何 等	何 人	何 月 給 何 圓 何 人
何 等	何 人	何 月 給 何 圓 何 人

●甲第四十九號

明治十九年三月廿六日

明治十八年(六月)甲第百三拾四號本縣布達地方稅ヲ以テ支辨スヘキ教育規則別紙ノ通改定來ル四月一日ヨリ施行ス
右布達ス

○別紙

救助規則

第一條 此規則ニ依リ救助スヘキモノ左ノ如シ

第一 行旅人天災重病飢餓ニ依リ救護ヲ受ケ貧困ニシテ救護費ヲ辦償シ能ハサル者其救護費

第二 行旅病人并行旅死亡人ノ遺子家元貧困ニシテ難引取モノ其引取費

第三 行旅病人又ハ行旅死亡人ノ携帶セル幼年者所在地ニ於テ成規ノ救助米ニテ救助シ難キモノ及ヒ棄兒迷子成規ノ養育米ヲ以テ養育シ難キモノ其補助費

第二條 土地家屋ヲ所有シ賣却セントスルニ購求者ナク若シクハ賣却シ能ハ

サル事故アリ貧困ニシテ飢餓ニ迫リ親戚隣保ノ救助スルナキモノ左ノ區別ニ依リ救助ス

第一 獨身ニシテ癡疾ニ罹リ産業ヲ營ム能ハサルモノ又ハ獨身ニアラズト雖モ餘ノ家人癡疾老衰疾病幼弱(十八年未滿)等産業ヲ營ム能ハサル

モノニシテ其身癡疾ニ罹リ産業ヲ營ム能ハサルモノハ一日 男米三合
女米二合
以內ヲ以テ之ヲ給ス

第二 獨身ニシテ六十年以上ニ及ヒ老衰シ産業ヲ營ム能ハサルモノ又ハ獨身ニアラズト雖モ余ノ家人癡疾老衰疾病幼弱等産業ヲ營ム能ハサルモノニシテ其身六十年以上ニ及ヒ老衰シ産業ヲ營ム能ハサルモノハ
 第一項ニ依リ之ヲ給ス

第三 獨身ニシテ疾病ニ罹リ産業ヲ營ム能ハサルモノ又ハ獨身ニアラズト雖モ余ノ家人癡疾老衰疾病幼弱等産業ヲ營ム能ハサルモノニシテ其身疾病ニ罹リ産業ヲ營ム能ハサルモノハ第一項ニ依リ之ヲ給ス

第四 獨身ニシテ十五年未滿ノモノ又ハ獨身ニ非ズト雖モ余ノ家人癡疾老衰疾病幼弱等産業ヲ營ム能ハサルモノニシテ其身十五年未滿ノモノハ一ヶ年米七斗以内ヲ以テ之ヲ給ス

第五 癡疾老衰疾病幼弱(十五年未滿)等産業ヲ營ム能ハサルモノニシテ余ノ家人失踪或ハ徵兵入營又ハ在監中ノモノハ其實況ニ依リ救助スルヲ得其米額ハ本條第一項乃至第四項ニ依ル但徵兵入營ノ爲メ家人飢餓ニ追ルモノハ土地家屋ノ有無ニ拘ハラズ救助スルヲ得

第三條 救助米ハ該地前月ノ下米相場ニ依リ代金ヲ以テ之ヲ給ス

第四條 給助ヲ受ケント欲スルモノハ其町村内二名以上ノ保証人ヲ立テ其癡疾疾病等ハ醫案書ヲ添ヘ願出ツヘシ但第一條各項ニ該當スルモノハ郡(區)長ヲ經由シ戸長ヨリ申立ツヘシ

第五條 願書ヲ差出シタルルハ戸長ハ實地ニ就キ調査ヲ遂ケ添書ヲ附シ差出スヘシ

第六條 戸長ニ於テハ第二條各項ノ米額ヲ目途ニ立テ其以内ヲ以テ足レリト認ムルルハ其數量適宜ニ斟酌シ精細具狀スベシ

●丙第八十八號 明治十九年三月二十九日 例ヘバ明治十九年報ニハ勸業年報例中町村費勸業費計算ハ會計年度ニ據ルベシ 明治十八年度決算割ヲ記載スル (本文ノ外ハ必要ニ非ズ依テ記載セズ)

●甲第六拾五號 明治十九年四月十二日

明治十七年(九月)甲第百貳拾九號本縣布達農商務省廣島山林事務所ヘ差出ス諸願等ハ自今郡役所ヲ經由スルニ及ハス住所戸長(廣島區區長)ノ與印ヲ受ケ差出シ居住地外ノ官林ニ關スル願届ハ住所戸長及ヒ其官林所在地戸長(所在地廣島區區長)ノ與印ヲ受ケ差出スヘシ但金錢收納ニ關スル事件ハ從前ノ通

右布達ス

●丙第九拾九號

明治十九年四月十日

其役所處務條例本月十五日ヲ期シ開申シ爾後改正加除ノ都度届出ツヘシ

●丙第七拾八號

明治十九年七月六日

土地開墾ヲ願出ルモノアルハ土地所在ノ戸長於テ左ノ事項ヲ詳記シ水理其他支障ノ有無取調副申スヘシ

一 河川ノ名稱及幅員距離

但沿川ノ地ハ水源流末等ヲ記入スヘシ

一 國縣道及里道ノ區別等級距離

一 近傍ニ名品著名區舊跡港灣等アルハ其距離

一 開墾地ノ地勢險阻、傾斜、平坦ノ類及ヒ四境ノ地種目

一 該地ヲ開墾セハ自然土砂崩壞水源涸竭風致損障風潮ノ禍害ヲ醸スヘキ恐レ

ナキヤ否

●訓令甲第二號

明治十九年八月三十一日

郡區役所處務規程左之通之ヲ定ム

右訓令ス

第一條 郡區役所ノ事務ヲ分掌セシムル爲ニ第一課第二課第三課第四課第五課ヲ置キ課中便宜分掌ヲ設上席ノ書記ヲシテ各一課ノ長タラシム

第一課

一 水利土功會區町村會ニ關スル事項

二 文書往復ニ關スル事項

三 學務ニ關スル事項

四 衛生ニ關スル事項

五 他課ノ主掌ニ屬セサル事項

第二課

一 兵事ニ關スル事項

二 戶籍社寺ニ關スル事項

第三課

一 農工商務ニ關スル事項

二 土木ニ關スル事項

三 遞信ニ關スル事項

第四課

一 諸稅區町村費備荒儲蓄金徵收ニ關スル事項

二 地理ニ關スル事項

第五課

一 金錢出納ニ關スル事項

二 第二部歲入ニ關スル事項

三 地方稅區町村費備荒儲蓄金支出ニ關スル事項

第二條 郡區長事故アルハ郡區上席ノ書記其職務ヲ代理ス

第三條 郡區長ハ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルヲ得

第四條 郡區長ハ廳中處務ノ細則ヲ設クヘシ

●縣令甲第四號 明治十九年八月十日

本縣縣令到達日數及施行期限等左ノ通之ヲ定ム

第一條 縣令ハ郡區役所到達日數ノ后七日ヲ以テ施行ノ期限トス其到達日數左ノ如シ

到達日數

廣島區 即日 安藝郡 二日 佐伯郡 二日 高田郡 二日

沼田郡 二日 賀茂郡 二日 豐田郡 二日 御調郡 三日

山縣郡 二日 三 次郡 三日 世羅郡 三日

深津郡 三日 荻田品治 郡三日 三 次郡 三日 奴可郡 三日

沼隈郡 三日 神石甲奴 郡三日 三 次郡 三日 三上郡 三日

安那郡 三日 三 次郡 三日 三 次郡 三日 三上郡 三日

第二條 施行期限ハ前條ノ如シト雖モ天災時變ニ依リ縣令到達日數内ニ到達

セサルハ其到達ノ翌日ヨリ起算ス

第三條 縣令發布ノ當日ヨリ施行セシムルヲ要シ又ハ特ニ施行ノ日ヲ掲ケ

タルモノハ總テ前條ノ例ニ依ラズ

●縣令甲第十七號 明治十九年八月卅一日

地方官々制發布セラレ候ニ付テハ郡區長ニ於テ處分シ得ヘキ事項ノ概目左ノ通定メラル

一 國稅地方稅備荒蓄金及區町村費不納處分ノ一

- 二 徵兵取調ノ
 - 三 逃亡死亡絶家ノ財産處分ノ
 - 四 官有地ノ倒木枯木ヲ賣却スル
 - 五 電線道路田畑水利ニ障碍アル官有樹木ヲ伐採スル
 - 六 河岸地借地檢査ノ
 - 七 印紙賣捌願ノ
 - 八 學校資金ノ
 - 九 地方稅支弁ニ係ル道路堤防急破修繕ノ
 - 十 地券書換願ノ
 - 十一 社寺什物取締ノ
 - 十二 府縣社以下並寺院境内枯損竹木伐採及竹木栽培願ノ
 - 十三 度量衡檢査ノ
 - 十四 諸貸下金徵收處分ノ
- 右ノ外法律命令ヲ以テ委任シ及知事ヨリ特ニ分任スル條件
- 訓令甲第貳拾九號 明治十九年九月二十八日

暴風雨被害概況報告表并ニ各河流域内水害表様式別表ノ通相定候條右様式ニ準
シ本年分ヨリ調製申報スヘシ
右訓令ス

○別表

水害表調査方便概

- 第一項 本表ハ各河流域内損亡ヲ悉ク代價ニ積リ之ヲ通算シテ損金高ノ判明
ヲ要ス故ニ流亡毀損セシモノハ各其數量及損亡價金(人民ヲ除ク)ヲ見積リ之ヲ
掲載スベシ
- 第二項 本表上部ニ流域内トアルハ流域内ニアル所ノ支川幹河ニ流入スルモ
ノ又幹河ヨリ流出スル派川及郡數等ヲ遺漏ナク擧クベシ又洪水トアルハ唯
水漲ノミニテ流失毀損ノ害ナキ河川ハ其名ヲ記載スルニ及バズ
但幹河ハ流域内唯一川ニシテ既ニ表初ニ其河名ヲ掲ケ而シテ再ヒ此ニ列
記スルモノハ彼ハ流域ヲ示シ是ハ幹河水害ノ有無ヲ知ランカ爲メナリ
- 第三項 全上水源流末トアル欄内ハ某河ノ水源ハ某國某郡某山ヨリ流出シ
テ某國某郡ヲ經テ流末ハ某國某郡某村ニ至リ某湖ニ會シ某港某海ニ流入ス

ル旨ヲ掲載スヘシ

第四項 數量ノ欄内建家及神社佛閣等ハ(軒)又(坪)田畑其他反別ヲ以テ算スルモノハ(町)穀類ハ(石)材木樹木ハ(一本)尺メハ(一本)方一尺其他金ハ(圓)等ヲ一位トス而シテ一位以上ハ位ニ應シ其數ヲ記シ又奇零以下ハ其物ニ應シ普通ノ稱呼ヲ用ユ而シテ四捨五入ノ算法ヲ用ユヘシ

但地券金トアル欄内ハ其段別ニ當ル地券金高ヲ記シ而シテ損亡代價ノ欄内ハ實際賣買ノ概算金員ヲ記載スヘシ

第五項 損亡代價ノ積リ方ハ(牛馬ハ一頭)(家ハ一坪)(反別ハ一反)(穀類ハ一石)(橋梁川除圪樋ハ一ヶ所)(堤防道路井堰用悪水路ハ拾間)(家什ハ一箇)(材木ハ尺メ壹本)(樹木ハ壹本)(舟ハ一艘)(凍餓ハ一人分)等ヲ以テ率ヲ立テ金ニ積ルヘシ而シテ其金員ヲ下部欄外算率ノ部ニ記載ス若シ一個當リ平均ヲ得難キモノアレハ損亡代價ノ部ノミ記載スヘシ

但樹木ハ目通周四五尺以上ヲ大トシ壹尺以上ヲ小トス而シテ大小各一本ノ平均價格ヲ算率ノ部ニ記スヘシ又壹尺ニ滿タサルモノハ稚木ノ部ニ其損亡代價ノ總計ノミヲ擧グヘシ

第六項 田畑ノ植物ノミ流失シ其土地ヲ損セザルモノハ生毛損數ノ部ニ土地植物共ニ損スルモノハ作徳減分ノ部ニ竹林ノ土地共ニ流失スルモノハ其土地ハ森林ノ部ニ又草生小笹生發生等ハ山野ノ部ニ記載スヘシ又通計ト目下凍餓トノ間ニ空欄ヲ設クルモノハ其被害ノモノ若シ表中名稱何レノ所ハモ編入シ難キ波止塙等ノ類アレバ更ニ其名目ヲ起シ他ノ例ニ準據登記スヘシ

第七項 損亡價金ノ積方ハ則チ流亡又ハ毀損スル所ノ物料現時ノ價格ヲ以テ計算ス而シテ其常ニ賣買スルモノハ價格ヲ得ル易シト雖平常ニ賣買セサル道路堤防等ノ如キハ容易ニ其價格ヲ得ル難シ此ノ如キノ類ハ其再築ノ費金概算ヲ記載スヘシ若シ再築セサルカ又ハ舊慣ノ如ク築造セサルモ仮リニ舊形ニ復スル工費ノ概算ヲナシ其金額ヲ登記スベシ

第八項 表末提要ノ部ニハ洪水ノ景况ハ某月某日午前(後)某時某分ニ方ツテ非常ノ東(西南北)風吹き起リ天曇リ某時間ニ彌増暴風雨トナリ某時間中降り續キ全某日ノ午前(後)某時ニ快晴トナル是故ニ某日ノ午前(後)某時ニ方ツテ平水位ヨリ何拾何尺ノ高水トナリ全月某日午前(后)某時ニ平水位ニ復

西 洋	形		日		堤		家		馬	牛	人		
	沈	破	流	沈	破	潰	破	半			潰	死	死
沒	損	失	沒	損	崩	損	潰	崩	軒	亡	亡	傷	亡
風	全	全	五	五	箇	箇	全	全	軒				
蒸	上	上	十	十	所	所	上	上	數				
帆		樹	鹽		畑		田		井	川	溝	堤	
瀨		木	田		地	作	地	作	堰	除	渠	塘	
		頭	破	破	盤	毛	盤	毛	破	破	破	決	
		倒	損	損	破	流	破	流	損	損	損	堤	
		箇	凡	凡	凡	亡	亡	亡	箇	箇	箇	箇	
			段	段	段	段	段	段					
		所	別	別	別	別	別	別	所	所	所	所	

名	况概雨風暴	
	稱	被
害	員	
數	名	
稱	被	
害	員	
數	數	
<p>第十項 本表ハ九月ヲ限リトシ取調年々十月十日限リ差出スヘシ</p> <p>何郡區暴風雨(海潮)被害概況表</p> <p>第九項 沿海地ノ水害ハ表題ノ部ニ何所海岸ト書シ河流域内ノ四字ヲ塗抹シ又上部ニ於テハ罹害ノ部而已ニ記載ス其他提要數量損亡代價等ニ至テハ他ノ流域調査方ニ異ナルヲナシ</p> <p>第八項 飢饉或ハ山抜海潮等ニテ非常ノ災害ニ罹ルモ亦全シ</p> <p>第七項 某村ノ堤坊破損セシヨリ水勢洋溢シテ某地横流シ之カ爲メ非常ノ災ニ罹ル等ノ事實又ハ某所ノ水門等破損シ水湖リ大破トナル旨ヲ記載スベシ</p> <p>第六項 飢饉或ハ山抜海潮等ニテ非常ノ災害ニ罹ルモ亦全シ</p> <p>第五項 沿海地ノ水害ハ表題ノ部ニ何所海岸ト書シ河流域内ノ四字ヲ塗抹シ又上部ニ於テハ罹害ノ部而已ニ記載ス其他提要數量損亡代價等ニ至テハ他ノ流域調査方ニ異ナルヲナシ</p> <p>第四項 飢饉或ハ山抜海潮等ニテ非常ノ災害ニ罹ルモ亦全シ</p> <p>第三項 飢饉或ハ山抜海潮等ニテ非常ノ災害ニ罹ルモ亦全シ</p> <p>第二項 飢饉或ハ山抜海潮等ニテ非常ノ災害ニ罹ルモ亦全シ</p> <p>第一項 飢饉或ハ山抜海潮等ニテ非常ノ災害ニ罹ルモ亦全シ</p>		

派川名何々	支川名何々		幹川名何々		流域名何々		洪水月日		名	稱	員	數	損	耗	代	價
	鹽田	耕地	建物	牛馬	現時凍餓ニテ救助セシモノ	負傷	死	亡								
年	流	生毛ノ損耗	年	流	破損及崩潰	流	失	死	亡	稱	員	數	損	耗	代	價
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	稱	員	數	損	耗	代	價

明治 年 月 日	梁橋		道路		形船		凍餓ニ迫リ救助セシ人員
	破損箇所	流失箇所	破損箇所	流失箇所	破損	流失	
					風蒸	風蒸	
					帆	帆	
					雜		

一員數ノ確實ヲ得難キモノハ姑ク概數ヲ掲グヘシ
 一雜ノ欄内ヘハ名稱中ニ漏レタルモノヲ掲グヘシ
 一名稱中被害ナキモノハ其員數ノ欄内ニ圈点ヲ付スヘシ
 一本表ハ災害ノ都度速ニ申報スヘシ
 一人口壹万人以上群居セル市ハ其都度特ニ一表ヲ製シ本表ト共ニ差出スヘシ

何郡區風水害表

明治何年

町		村		郡		風水罹害區域							
何箇町		何箇村		名何々部									
西洋形		日本形		雜種流損	波止場		用惡水路破損		樋類		川除破損		
風帆船	蒸氣船	以上	以下		延長	箇所	延長	箇所	損	失		箇所	延長

月日		風害		海岸名何々		害月日		海岸水	
何月何日		何月何日		何月何日		何月何日			
橋梁		堤坊切所		道路毀損		雜種地		宅地	
毀損箇所		流失		峽所		社寺地其他		森林山野地	
延長	箇所	延長	箇所	延長	箇所	延長	箇所	全	全

要 提	<p>一 損耗代價ハ現時賣買ノ價格ヲ記入スヘシ</p> <p>一 道路堤防等ノ如キハ毀損ノケ所再築ノ費金概算ヲ以テ登記スヘシ</p> <p>一 員數ノ欄ニ建物(軒)段別ハ(町)金員ハ(圓)延長ハ(間)ヲ一位ニ定メ船舶ハ艘數ヲ掲クヘシ</p> <p>一 提要ノ欄ニハ水害ノ景況ヲ略記ス</p> <p>一本表ハ九月ヲ限トシ取調年々十月十日限り差出スヘシ(明治十九年十月)訓令甲第三十七號ニテ改正</p> <p>●訓令甲第三拾七號 明治十九年十月七日</p> <p>本年九月訓令甲第廿九號各河流域内水害表様式別表ノ通改定ス</p> <p>右訓令ス</p>
	<p>何 郡 區 風 水 害 表</p> <p>明 治 何 年</p>

洪 水		月 日		何 月 何 日		流域名何々々		幹川名何々々		支川名何々々		
名 稱	員 數	損 耗	代 價	死 亡	負 傷	現時凍餓ニテ救助セシ者	牛 馬 死 亡	建 物		耕 地		鹽 田
								流 失 軒 數	破 壞 及 崩 壞 全	流 亡 反 別	生 毛 ノ 損 耗 全	

町 數何々町	村 數何々村	郡 名何々郡	風水罹害區域		川 除 破 損 箇 所
			樋 類 損 失 箇 所	用 惡 水 路 破 損 箇 所	
沒 船 流 失 沈		雜 種 流 損	波 止 場	延 箇 所 長	延 箇 所 長
西 洋 形	日 本 形				
風 帆 船	蒸 氣 船	以 上 五 十 石	以 下 五 十 石	延 箇 所 長	延 箇 所 長

月 日	風 害	海 岸 名 何 々	海 岸 水 害 日 何 月 何 日	派 川 名 何 々	雜 種 地
數 損 箇 所	流 失 箇 所	毀 損 箇 所	切 所	延 箇 所 長	延 箇 所 長

損耗代價通計

提
要

- 一 損耗代價ハ現時賣買ノ價格ヲ記入スベシ
 - 一 道路堤防等ノ如キハ毀損ノケ所再築ノ費金概算ヲ以登記スベシ
 - 一 員數ノ欄ニ建物ハ(軒)反別ハ(町)全員ハ(圓)延長ハ(間)ヲ一位ニ定メ船舶ハ艘數ヲ掲グベシ
 - 一 各流域毎ニ一表ヲ調製スヘシ
 - 一 本表ハ毎年二月毎ニ申報スヘシ
- 訓令甲第四十六號 明治十九年十月十二日
死亡届書式左之通改定候條醫師ハ其郡區長ヨリ通達スヘシ
右訓令ス
但本令ニ矛盾スル從前ノ達ハ廢止ス

死亡届

(用紙半紙)

何郡何町何番屋敷

族籍(職業戶主又ハ誰父母子第職業ト記シ本
人無業ナレハ職業誰父母子弟ト記ス)

姓名

病名本月何日午前何時死亡
后何時死亡

何年月生

右ハ私(施治ノ患者ニ候處或
ハ診察候處既ニ)死去(候間或ハ)此段御届仕候也
仕居候

何郡區何町村

醫師 何 誰 印

明治年月日

知事 宛

●訓令甲第六十四號 明治十九年十月廿三日

學事年報取調條項自今左ノ通相定ム曆年ノ調査ニ據リ翌年一月三十一日限り差
出スヘシ
右訓令ス

學事年報取調條項

一部内學事ノ狀況

學事施設ノ要領及學事ノ現狀ヲ概記スヘシ

一學區

廣狹適否ノ狀況等ヲ記載スヘシ

一學齡兒童就學

就學兒童増減ノ原由及就學督責ノ實施其他學齡就學ニ係ル總テノ狀況方法等ヲ記載スヘシ

一小學校

公私立學校設置廢止ノ緣由諸般ノ準備生徒修業ノ狀況其他父兄ノ職業ニ關シ在學ノ長短學業進否ノ趣ヲ異ニスル等ノ事項ヲ記載スヘシ

一小學教員

教員資格待遇ノ狀況需用供給ノ關係等ヲ記載スヘシ

一教員講習所小學督業

教員講習所ノ設置小學督業ノ配置其他授業法ノ改良ニ係ル方法等ヲ記載スヘシ

一各種學校

學校設置廢止ノ緣由教授ノ要旨教員ノ資格生徒ノ増減學業進否ノ狀況等ヲ記載スヘシ

一教科圖書

教科用圖書ノ適否需用供給ノ關係等凡教科用圖書ニ係ル狀況ヲ記載スヘシ

一幼兒保育

學齡未滿幼兒ノ保育ニ係ル方法狀況等ヲ記載スヘシ

一公學資

町村立學校等經濟ノ要領授業料徴収ノ方法寄附金ノ増減收支ノ方法費金ノ豐歉學校資財増減學資蓄積等總テ學校維持並理財上ノ得失ニ係ル事項ヲ記載スヘシ

一區町村會

教育費ニ係ル議事ノ梗概ヲ記載スヘシ

一教育會

組織并議事ノ梗概ヲ記載スヘシ

一 學事關係職員

學務擔任郡區吏戶長凡學務關係職員事務ヲ指辨スル總テノ狀況及方法等ヲ記載スヘシ

一 學事監督及獎勵

學務官吏巡視監督ノ狀況並教員生徒等獎勵ノ要領ヲ記載スヘシ

一 將來學事施設上領要ノ件

一 其他學事ニ付申報スヘキ條件ハ便宜類聚記載スヘシ

● 訓令甲第七十六號

明治十九年十一月十九日

本年(六月)丙第百六十二號ヲ以テ統計材料様式省減候ハ務メテ調査上ノ煩ヲ省キ統計報告ヲシテ一層迅速ナラシムルノ主旨ニ候條期限通申報スヘシ

● 訓令甲第八十二號

明治十九年十一月廿七日

內務省令第十九號施行以前ニ於テ出入寄留ノ届出ヲ爲シ現ニ出入寄留ノ届出アル者ハ本籍地ニ於テハ出寄留者ノ留守引受人又ハ其戶主入寄留者ニ於テハ地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヲ取調タル上出入寄留簿ヲ整頓スヘシ

右訓令ス

● 縣令甲第七十七號

明治十九年十二月廿六日

明治十七年(五月)甲第六十一號本縣布達強竊盜其他被害届之儀ハ警察分署又ハ交番所へ告訴シタル場合ニ限り届出ヲ爲スニ及ハス

● 訓令甲第八十三號

明治十九年十二月二日

內務省令第十九號第五條但書ニ依リ本籍外ノ者ヨリ差出タル届書ハ左ノ如ク取扱フヘシ
右訓令ス

一 寄留者ニ係ル届書ハ寄留簿ニ登記シタル上入寄留書ト合綴スヘシ但出產ニ於テハ別ニ寄留届ヲ爲サシムルニ及ハス

一 寄留者ニ非サル者ノ届書ハ總テ便宜編綴スヘシ

一 同令第六條ノ入寄留書第七條ノ寄留者退去届書及第八條ノ寄留者復歸届ハ類集編綴スヘシ

● 訓令甲第八十八號

明治十九年十二月十六日

本年(九月)内務省令第十九號ヲ以テ寄留者届出方被相定候ニ付テハ官有地又ハ家屋ニ寄留スル者ハ寄留本人ト其官地又ハ官舎ヲ管理スル主務官トヨリ届出其寄留者退去ノ時ハ前頭主務官ヨリ届出ツヘシ

右訓令ス

●縣令甲第五號

明治二十年一月十九日

轉籍スルモノハ戶長區長ハ送籍ヲ請求シ入籍シタルキハ入籍地戶長區長ハ届出ヘシ

●縣令甲第七號

明治二十年一月十九日

全郡區内他町村又ハ全町村ニ寄留スルキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ借地借家ニ於テハ寄留者及ヒ地主又ハ其地所其家ヲ管理スルモノヨリ十日以内其他戶長區ハ區長へ届出一戶長管理區域外ニ係ルキハ同時ニ本籍地戶長ニ届書ヲ發送スヘシ

●訓令甲第一號

明治二十年一月五日

内務省令第十九號第六條ニ依リ寄留ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テ公使館領事館又ハ居留地外國人所有ノ家屋ニ寄留シタルモノハ本人(幼者ハ后見人)ノ届出ノミチ

以テ其手續ヲ了シタルモノトシ第七條寄留地ヲ去リ本籍地へ復歸又ハ更ニ他へ寄留シタルノ届書ヲ本籍戶長ニ於テ領受シタルキハ其旨該戶長ヨリ前寄留地ノ戶長へ通報スヘシ

右訓令ス

●訓令甲第十六號

明治二十年一月廿日

戶籍取扱心得別冊ノ通相定ム

右訓令ス

(別冊)

第一條 戶籍用紙證書ノ寸尺ハ別紙甲乙號雛形ニ依リ調製スヘシ

第二條 毎戸ニ番號ヲ付シ町村毎ニ改タメ順次何番屋敷ト記載スヘシ

但シ新タニ戸ヲ設クルモノアルキハ次何番屋敷ト記載スヘシ

第三條 内務省令戶籍取扱手續第十六條ニ據リ送籍狀ヲ發送スル場合ニ於テハ左ノ書面ヲ添付スヘシ

一 戶主タリシ男女子及嗣子承祖ノ孫相續人ノ位置ニアリシ男子ニシテ死亡

又ハ他籍ニ移リタルモノアルキハ本人前戶籍寫

一 徵兵現役中死亡シタルモノアルキハ本人前戸籍寫

一 處刑ヲ受ケシモノアルキハ其刑名及宣告ノ年月日

第四條 郡役所ニ納ムル戸籍副本及諸届ハ之ヲ保存スルニ止メ加除異動ヲ登

記スルニ及ハス寄留ニ關スル届書ハ戸長役場區ハ區ニ保存スヘシ

第五條 家族附籍并ニ全町内ノ子弟等一時別居ヲナスモノアルキハ寄留簿中へ

其部ヲ設ケ登錄スヘシ

但本條ノ取扱ハ寄留者全様トス

第六條 他府縣他郡區又ハ全郡區内他町村へ別居ノモノハ寄留ノ取扱ヲ爲ス

ヘシ

甲

縦線七寸

乙

縦線七寸

●訓令甲第二十二號				
明治十七年 ^{十二} 月 ^{十二} 丙第三百號本縣達行旅病人及同死亡人取扱費目左ノ通相定ム				
右訓令ス				
第一條 行旅病人救護費ハ左ノ科目並費額ニ徴過スヘカラス				
一 藥餌料	實費			
一 醫師診斷料	金二拾錢以内			
明治二十年一月廿五日				

一 看護人賃	一晝夜分	金十五錢以内
一 食料	一飯分	金壹錢五厘以内
一 宿手當	一晝夜分	金三錢以内
一 薪炭油ノ類	實費	
一 小屋掛ニ關スル諸費	金五十錢以内	
一 發病者救護宿所へ運送費	金二十錢以内	
第二條 行旅死亡人埋葬費ハ左ノ科目並費額ニ超過スヘカラス		
一 棺桶標木担竹繩等ノ類	金三十錢以内	
一 墓地主當	實費	
一 但共葬墓地ノ設ケナキ町村ニ限ル		
一 埋葬人足賃	金三十錢以内	
一 揭示並廣告費	實費	
一 但廣告ハ二日ニ限ル		
一 死体番人賃	一晝夜分	金拾五錢以内
第二條 戶長ヨリ發スル文書等ノ遞送ニ關スル費用ハ總テ戶長役場費ヲ以テ		

支辨スヘシ

廿一年(十月)訓令甲第百廿七號參照

●訓令甲第拾貳號

明治廿年二月三日

全郡區内他町村又ハ全町村ノ寄留者退去スル并自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ借地借家ニ於テハ地主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其他戸長(區ハ區長)へ届出一戸長管理區域外ニ係ルモノ本籍地へ皈リタルトキハ戸主又ハ本人ヨリ十日以内届出ヘシ

●訓令甲第拾一號

明治廿年二月十日

戸籍登記書式并送籍狀及入籍報知書々式別冊ノ通相定ム
右訓令ス

明治二十年二月訓令甲第四十一號へ附着

何年何月何日何番屋敷ニ移ル

律式中▲印ハ朱字又ハ朱線

何年何月何日華族ニ列セラル

何縣何郡何村何番屋敷

前戸主

亡父氏名

▲何年何月何日何郡何村何番屋敷ニ轉住

何年何月何日相續何年何月何日願濟改名何年何月何日願濟復姓

士族

亡父名長男

何年何月何日何郡何村何平民氏名ニ女入籍ス

戸主

復姓號

何年何月何日何縣何區何町士族氏名長女入籍ス

母

▲新名

何年何月何日願濟廢嫡

妻

氏名

何年何月何日願濟廢嫡

長

何年何月何日生

何年何月何日願濟廢嫡

男

何年何月何日生

何年何月何日願濟廢嫡

名

何年何月何日生

何年何月何日願濟廢嫡

名

何年何月何日生

何年何月何日願濟廢嫡

名

何年何月何日生

何年何月何日全村何番屋敷絶家何氏ヲ再興ス	何年何月何日全郡何村平民氏名ニ嫁ス	何年何月何日願濟大叔母大伯母正誤何年何月何日失踪	何年何月何日失踪何年何月何日何縣何郡何村ニ現在	何年何月何日何地某裁判所言渡ニヨリ何郡何村平民氏名妻離婚ニ付復
弟	妹	大叔伯母	叔父	叔母
亡父名三男	亡父名二女	亡曾祖父名四女	亡祖父名三男	亡祖父名二女
何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生
一名	一名	一名	一名	一名

百九

何年何月何日全村平民氏名二女人籍ス	何年何月何日夫名ニ從ヒ分家ス	何年何月何日何郡何村何番屋敷ノ分家ス	何年何月何日何縣何郡何町平民氏名養女トナル	何年何月何日死亡	何年何月何日何縣何郡何村平民氏名長男名ニ嫁ス
弟	弟	女二	男二	女長	
弟名妻	亡父名二男				
何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生
一名	一名	一名	一名	一名	一名

百八

何郡何町平民氏名三男何年何月何日母名離婚付願濟携帶

百十

何年何月何日何縣何區何町士族氏名長女入籍ス

▲何年何月何日何縣何郡何町士族氏名方ニ離婚復歸ス

婦

長男名妻
何年何月何日生

長男名長男

何年何月何日生

養子名妻

何年何月何日生

何年何月何日何府何郡何村平民氏名長男名妻離婚付復歸

何年何月何日養子名妻ト爲ル

何年何月何日何郡何村平民氏名二男入籍ス

子

何年何月何日生

備考

願濟又ハ確定裁判言渡ニ係ル事項ハ何年何月何日願濟云々又ハ何年何月何日何地何裁判所裁判言渡云々ト記スヘシ
朱線ハ除籍又ハ氏名身分變換又ハ訂正ヲ登記スルトキニ畫スルモノトス

戶籍登記書式第二

何縣何郡何町

何年何月何日何町何番地々光ニ於テ拾上

▲何年何月何日何町氏名養子ト爲ル

何年何月何日何町通何處ニ於テ拾上

何年何月何日何郡何村平民氏名引受ト爲ル

棄兒 棄兒

推測何年何月生

氏名

推測何年何月生

氏名

百十一

頁八

割印

第何号 (本番号ハ登記目録ノ番号ヲ用キ役場印ヲ以テ登記目録ト割印スヘシ)
全戸ノ実籍世書式

何縣何郡何村何番屋敷	平民	前戸主	住	妻	母	主	戸	亡父氏名	舊姓號	氏 舊名	何年何月何日生	亡父名長男	何年何月何日生	氏 舊名	何年何月何日生	亡父名妻	何年何月何日生	氏 舊名	何年何月何日生	何年何月何日何府何區何町士族氏名長女入籍	何年何月何日何府何區何町士族氏名長女入籍	右全戸何名御管内何村へ轉送籍候也		
		亡父氏名						亡父名長男															亡父名妻	亡父名長男

百十九

出寄留簿書式第一
出寄留簿

他郡區之部

何村何番屋敷士族氏名父

母右同人妻

名 名

右同人二男

七

何年何月何日何府何區何町何番地氏名方へ寄留替

一弟一名

右何年何月何日何郡何町何番屋敷氏名方へ寄留何月何日發送届書何月何日受領

何村何番屋敷平民氏名二女

右何年何月何日何郡何村何番屋敷氏名方へ寄留何月何日發送届書何月何日受領

何村何番屋敷士族氏名弟

右何年何月何日何郡何町何番屋敷氏名方へ寄留何月何日發送届書何月何日受領

出寄留簿第二書式

他府縣之部

何町何番屋敷士族氏名二男

▲何年何月何日復歸何月何日届出

一名

右何年何月何日何府何區何町何番地氏名方へ寄留何月何日發送届書何月何日受領

何村何番屋敷平民

氏名
母名
妻名

右何年何月何日何縣何郡何村何番地へ寄留何月何日發送届書何月何日受領
登記目錄部門并事項書式第一

登記目錄

加籍目錄

本籍人管内出生之部

本籍人管外出生之部

棄兒之部

無籍者就籍之部

他府縣ヨリ入籍之部

一 結婚入籍

二 縁女入籍

三 養子入籍

四 相續人入籍

五 携帶者入籍

六 親族入籍

七 庶子私生子引取

八 棄兒引取

九 棄兒引受替入籍

十 離婚復籍

十一 養子女離縁復籍

十二 相續人離縁復籍

十三 分家入籍

十四 分家者復歸入籍

十五 附籍者入籍

十六 附籍者別立入籍

十七 絶家再興入籍

十八 轉住入籍

他郡區ヨリ入籍之部

事項同上

他戸長役場管内ヨリ入籍之部

事項同上

登記目錄部門并事項書式第二

除籍目錄

本籍人管內死亡之部
本籍人管外死亡之部
失踪者及重籍者除籍之部
他府縣へ送籍之部

- 一 結婚送籍
- 二 縁女送籍
- 三 養子女送籍
- 四 相續人送籍
- 五 携帶者送籍
- 六 親族送籍
- 七 私生子引渡
- 八 棄兒引渡
- 九 棄兒引受替送籍
- 十 離婚送籍
- 十一 養子女離縁送籍
- 十二 相續人離縁送籍
- 十三 分家送籍
- 十四 分家者復歸送籍
- 十五 附籍者送籍
- 十六 附籍者別立送籍

十七 絶家再興送籍

他郡區へ送籍之部

事項同上

他戸長役場管内へ送籍之部

事項同上

登記目錄部門並事項書式第三

管內異動目錄

管內異動目錄
管內送入籍之部

事項加籍目錄入籍之部除籍目錄送籍之部ニ同シ

異動之部

- 一 戸内結婚
- 二 戸内離婚
- 三 家名相續
- 四 廢戸主
- 五 廢嫡
- 六 廢嫡者復立
- 七 私生子爲嫡子
- 八 棄兒立戸